

令和元年度第4回 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会

【日時】令和2年（2020年）1月20日（月）18時～19時30分

【場所】豊中市役所 第二庁舎3階 大会議室

次 第

1. 前回の振り返り

2. 答申案について

3. その他

(1) 【答申】

<資料>

【資料1】第3回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨

【資料2】第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について（答申案）

【資料3】第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について（抜粋）

令和元年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会
第 3 回会議 議事要旨

- 日時 令和元年(2019年)12月16日(月)18時30分～19時40分
- 場所 第二庁舎3階大会議室
- 出席者 高橋委員、石川委員、山下委員、池田委員、古川委員
計5名
- 事務局 都市経営部：津田次長
都市経営部経営計画課：寺田、坂本、田中、島、上田
- 案件 1. 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の諮問について
2. 策定スケジュールについて
3. 第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
(1)第2期総合戦略の考え方について
(2)第2期総合戦略の重要目標達成指標(KGI)及び重要業績評価指標(KPI)(案)について
4. その他
- 資料 【資料1】委員名簿
【資料2】策定スケジュールについて
【資料3】第2期豊中市総合戦略の考え方について
【資料4】第1期総合戦略と第2期総合戦略のKPIの対応表
【資料5】第2期総合戦略の基本目標の補足資料となる基本的方向性(施策の方向性)・具体的施策(主な取組み)の達成の進捗状況を測る指標(KPI案)
【参考1】第4次豊中市総合計画前期基本計画(本編)
【参考2】第1期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 会議録 下記のとおり

●開会

●成立要件の確認

事務局

本委員会規則第6条第2項の規定により、会議の成立には委員の過半数の出席が必要です。本日は委員総数8名中、5名の委員の出席をいただいておりますので、成立要件を満たしております。

●資料について

事務局

(資料について説明)

本日追加資料として、豊中市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」と「総合戦略」【概要版】を配布しています。

●委員紹介など

事務局

今回から新しく委員になられた皆さまをご紹介します。

●案件 1. 第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の諮問について

会長

案件 1「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の諮問について」、事務局より説明をお願いします。

事務局

本日、長内市長は公務のため、代わりに都市経営部次長から委員会に「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について」の諮問をさせていただきます。

(都市経営部次長から会長に諮問書の手渡し)

会長

それでは、案件 2「策定スケジュール」を事務局から説明してください。

●案件 2. 策定スケジュール

事務局

第 2 回の委員会でご説明した時からスケジュールに変更点がございますので、ご説明いたします。また第 1 期まち・ひと・しごと創生総合戦略に対していただいた答申書についても簡単に振り返りをさせていただきます。

(「【資料 2】策定スケジュール」をもとに説明)

会長

ただいまのご説明についてご質問、ご意見はありますか。

(意見なし)

次に、案件 3「第 2 期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」を事務局から説明してください。

●案件 3. 第 2 期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
事務局

第 2 期総合戦略の考え方と、第 2 期総合戦略の重要目標達成指標 (KGI) 及び重要業績評価指標 (KPI) についてご説明します。

(「【資料 3】第 2 期豊中市総合戦略の考え方について」「【資料 4】第 1 期総合戦略と第 2 期総合戦略の KPI の対応表」「【資料 5】第 2 期総合戦略の基本目標の補足資料となる基本的方向性(施策の方向性)・具体的施策(主な取組み)の達成の進捗状況を測る指標(KPI 案)」をもとに説明)

会長

この委員会で以前、総合計画と総合戦略の何が違うのかという議論がありました。この委員会で担うところは、人口ビジョンに基づいて行っていくものです。一方で、総合計画を見ている審議会もあるので、この委員会で幅広く同じことをやっていたら、わかりづらいと思います。

第 2 期の節目になりますので、私たちが議論しているこの委員会の役割をしっかりと定めた方がいいと思います。ですから、このような取りまとめをしていただいて、委員の皆さまに諮っていただければということから事務局にお願いをしました。特に KGI を設けるということにしても、最終的に見なければならぬのは、人口が増えたかどうかということと、これから先は社会人口増より自然人口増にもう少し目を向けた方がいいのではないということも前回の議論の中にあっただと思います。整理していくと最終目標として、この委員会で議論しなければならないポイントがどこで、それを実現するためにはどんな指標を途中経過としてチェックすることが必要なのかということ、皆さま方に議論をお願いしたいと思います。またこの KPI につながる様々な指標も総合計画の中で指標をお持ちだと思いますので、それを拝見することで、KPI の達成度合いに効いているところがどこも見やすくしていくことが必要ではないかということもありました。

国が総合戦略の様々な交付金を出すにあたって計画をいくつも作りなさいというのは行政側にとっても負担感が大きいと思います。そこをすっきりすることで、この委員会の役割がどこにあるのかも整理したうえで、議論を進めた方がいいと思っています。これをたたき台として委員の皆さまのご意見をお伺いして反映していきたいと思っています。

ただいまの説明についてご質問・ご意見はございませんか。

委員

金融業の代表としての立場から考えると、この委員会では産業の部分で意見を求められているのだと思っています。最終的には数値化された客観性は非常に重要ですが、そこに至るまでの過程も大事です。例えば廃業率を今回新規の KPI として書かれています。前回の委員会でもお話をいただきましたが、廃業は個人の事情もあるので、行政としては止めることはできないという論点で終わったかと思います。状況が悪くて辞めていく会社がある一方で、状況が良くて経営もうまくいっている状態でありながら、後継ぎがないから辞めていく場合もあります。ここに対して私たちも力を入れていて、開業する方と廃業する方をつなぐ仕組みというのは、行政ができる切り口だと思います。KPI についてはあまり細かくしすぎる必要はないと思いますので必要ありませんが、中身の部分をいかに行っていくかが重要だと思います。開業・廃業については廃業する人と開業する人をつなげる施策を考えていくことが必要だと思います。

会長

(2)の「働く場をつくるまち とよなか」の部分では、事業承継のことが問題となっていますので、手を入れていかないといけないと思います。

委員

先ほど、事務局から説明もありましたが、総花的な計画ではなく、フォーカスして人口を増加させるという政策に関することをしっかりとこの委員会で見えていくことは非常にいいことだと思いますので、私は賛成です。先ほどの資料 3「第 2 期豊中市総合戦略の考え方について」のところで今回の総合戦略は 3 年間と短めに設定されています。前の KPI もそうですが、KPI の数値は出ても経年的には見えづらい数字が結構あったと思います。そういう意味でも数字が形骸化しないように、例えば短期の目標と長期の目標という形でしっかりと分類することも重要ではないかと感じています。そうすることによって短期でここまでいこう、逆にここは 3 年間ではなかなか変わらないけれど、地道に行っていこうという形が明確に示すことができるのではないのでしょうか。目標はいろいろあり、すぐに成果が出る数字ばかりではないので、そのあたりの区別をすることは重要ではないかと考えます。

もう一つは、先ほどの答申の振り返りの部分でもありましたが、豊中市は地域の差が非常に大きかったと思います。その意味では、数字で全市レベルの推計人口と年少人口を KGI として出すのも必要ですが、地域によっては人口が増えるところもあれば、減少するところもあるので、それらをしっかりと把握することも重要です。KPI として、子育て世代と働き盛り世代にフォーカスを当てるのは非常に重要だと思いますが、地域の現状もしっかり把握することも、総合戦略で何を指すのかといった目的を考えたときには重要であると思います。例えば地域別の割合でもいいですし、この地域の数値が減っているから何とか維持しようという KPI も必要ではないかと思っています。

つまり、長期と短期の分類と、地域をしっかりと見る形をとることを意識してほしいと思います。せっかく KPI の数を減らすことで傾注すべき点をピックアップしているのです、より KPI の内容を充実させていただきたいと思います。

豊中市は自治体シンクタンクとして、とよなか都市創造研究所もあります。とよなか都市創造研究所では、市政に関するさまざまなリサーチをされているので、当該機関との連携を検討することはいかがでしょうか。これまでの答申書においても「要因分析をしてください」という記述もありますので。第 1 期の総合戦略では主に数字の変動に注目しがちでしたが、第 2 期の総合戦略では、それに分析を加えた形にすると短い計画期間でもより充実したものになるのではないかと思います。

委員

テレビの世界で例えると、毎日の視聴率を出しています。数年前までは、全世代の視聴率を平均して視聴率としていましたが、最近では 10 代から 53 歳までの視聴率も出して、それをもとに議論しています。さらに個人ではなく、ファミリーコアと呼ばれる家庭の中でどう見られているかに絞って数字を見るように変わってきています。このようにターゲットを絞ることによって全く数字が変わってきます。高齢の方の世帯と働き盛りの世帯では、昼間家にいないなどテレビを見る条件が変わってくるので数字が変わります。これを見ると差の大きさに驚きます。そういう意味でも今回の総合戦略では、数値の取り方をはっきり絞って、人口増加としてポイントを絞ったことは非常にわかりやすいと思います。

また新しく基本目標(3)の「地域住民同士が支えあう環境があるからと答えた市民の割合」という KPI は、今までの議論で知りたいと思っていたポイントについても追加されているので、今後わかりやすくなるのではないかと思います。

先ほどの委員が仰ったように、実際にやってみてどうなるかはこれからだと思います。

会長

たしかにテレビの世界だとスポンサーに話を持ち掛けるときに重要になると思います。

委員

そのとおりです。どれだけ視聴率が高くても、ターゲットにしている世代が見ていないとスポンサーはつきません。

会長

住民の皆さんに対して、いろいろ発信しようとした時にも、今の委員のご指摘は当てはまると思います。昼間に一生懸命広報しても伝わらなくて、夜間に告知する方がスムーズにいくのかもしれない。

委員

後、放送でいうと録画でしか見ないということも考えられます。個々の都合に合わせた見方がありますが、録画についての数字は現在出ません。このような方がどう見ているのかも数字として出していかないといけないと思っています。

会長

同じことを行政でも考えるのは大変なことかもしれませんが、効果的・効率的に仕事が進んでいくきっかけになる可能性もあるので、ぜひチャレンジしていただければと思います。

委員

第2期総合戦略のところで、基本目標(1)の「住み続けたいと感じている市民の割合」や基本目標(4)の「子育てがしやすいまちであると感じている市民の割合」、基本目標(5)の「保育・教育環境が充実していると感じている市民の割合」のKPIがありますが、すべてプラスに感じている人を市民意識調査で聞いています。しかしどう変わっていくのかを見るときには、マイナスがどういうふうに変わっていったのかを定点観測していく視点もあっていいと思います。例えば、心配事がある、気がかりなことがあるということを知った場合に、当初の人数と比べて、イベントや施策を実行した後にも同じような質問をすると、どれくらい減ったかが非常にわかりやすいと思います。KPIの質問もマイナスから見えてくる部分もあると思います。つついプラスで聞いてしまいがちですが、マイナスを聞くことによって何が足りないのかがわかります。さらに自由記述を入れるとこういったことが気にかかるという声を聞くことができ、それが次の施策をどうするのかにつながります。

そういう意味でも、自由記述を入れつつ、次にどういった施策を考えたらいいのかを打ち立てられるようなKPIにしていく必要があります。もちろん数字がどう変わるかを見ていくことも大事ですが、次につながるものと両立するような指標の聞き方もできるのではないかと思います。

会長

今のお話を聞いていて、例えば市外から豊中市に移り住んでくる人は、住むところを決める際にもその土地の移り変わりを意識してマイナス面を考えます。そう考えると、マイナスを言っている人の一つ一つの要因がわかっていくことでサポートのあり方は変わってくると思います。何が良かったのかより、何が不足していたのかを考えた方が、他にはないサポートのあり方が見えてくる可能性があると思いました。

委員

資料4の基本目標(5)のKPIに「地域や社会をよくするためになにかすべきことがあると答えた児童・生徒の割合」がありますが、これはどういった割合なのでしょう。

事務局

この問いについては、毎年行われている小学校・中学校対象の全国学力・学習状況調査の中の児童生徒質問紙調査からとっています。基本目標(5)が「子どもが育ち・学び・社会で活躍するまち とよなか」であることから、社会をよりよくしたいと考えている児童・生徒が多い方がよいと思い、KPI に設定しました。

委員

これについても先ほどと同様、プラス面とマイナス面で考えることができると思います。例えば、今は社会全体がダメだから私が何かしようというパターンと、もう一つは自分たちがやりたいという気持ちがあふれていて何かしようというパターンがあると思います。前者はネガティブなパターン、後者はポジティブなパターンだと思います。

委員

私も、この問いが児童・生徒の主体性を聞くポジティブなパターンか、子どもながらに社会の課題を感じているネガティブなパターンか、どちらなのか気になりました。先ほどの事務局の説明を聞いていると、ポジティブなパターンだと感じました。

事務局

事務局としてはポジティブなイメージで考えていました。

委員

もしかしたら質問票によるのかもしれませんが。前後の問いの流れの中で、ポジティブかネガティブを判断できるかもしれないので、一度質問票を確認してみてください。私自身もネガティブなことを聞くのは重要だと思っていますので、教えていただければと思います。

もう 1 点は、第 2 期の総合戦略を考えるにあたっては、SDGs はどのように扱う予定ですか。

事務局

豊中市としても今年から SDGs に取り組んでいます。例えば第 4 次総合計画前期基本計画の 17 施策及び施策の方向性と SDGs のゴールを結びつけることを行いました。第 2 期の総合戦略を策定するにあたり、SDGs の考え方は取り入れたいと考えており、具体的施策に SDGs のゴールのロゴを入れたりしたいと考えています。

委員

タグづけも大事だと思います。ただSDGsが何かを考えたときに、それでは不十分かもしれない。先ほどの委員が廃業率は行政が関わりにくい課題であると仰っていましたが、同様に多くの社会課題の解決は行政だけでは達成できません。行政のみで解決が無理だからSDGsというゴールを設定することで、企業を含め、社会課題にみんなで取り組みましょうという啓発活動が生まれたという経緯があります。行政が今まで行ってきたことはまさにSDGsを目指す取組みですが、それらのタグづけというより、企業や市民がSDGsを頑張る達成しようとしているところを後ろから支えることが、新たな行政の役割であり、SDGsの達成に向けての推進になると思います。すなわち、行政そのものがSDGsの達成に向けて頑張るといふより、一般の市民や企業がSDGsを推進するための基盤整備をする方が重要であると思います。例えば、教育分野では、ESDのように、市民を巻き込んでSDGsを推進するという仕掛けを作っていくということが、行政にとってのSDGsの関わり方の一つだと思います。その意味では、基本目標(3)の「地域住民同士が支えあう環境があるからと答えた市民の割合」というKPIもSDGsの一つとして位置づけられるのではないのでしょうか。このようにKPIの中でもSDGsの基盤整備になっている項目を取り出すだけでも、SDGsの推進に効果があると個人的には思います。国が推進するSDGsについては、KPIの達成を通じて市全体のSDGsの推進が達成される環境になるというようなことを追加的に書いてもいいと思います。

委員

資料2の平成30年の答申の内容で「他市比較の方法も検討されたい」とありますので、先ほどの委員に関連しますが、視聴率が何%と言われてもその数字が高いのか低いのかわかりません。他の番組の視聴率と比較することによって初めて高いか低いかがわかります。今回の総合戦略でも北摂地域や豊中市に隣接する市の数値と比較したものもあっていいと思います。そうすることで、市民に発信する時のわかりやすくなります。

現状で他市の職員とこのような比較の話をする機会はあるのでしょうか。

事務局

まち・ひと・しごと創生総合戦略について直接お話をする機会はありません。しかし北摂地域の市が集まって一つの案件に対する状況や傾向を報告したりすることは、それぞれの部署で行っています。また大阪府が取りまとめた統計書として比較できるものもあります。

最近では、西宮市・尼崎市・豊中市・吹田市の同規模の4市が一緒に何かできないかということで、連携も始めています。

会長

他市比較については、その4市の間でも検討していただければと思います。それぞれの市に特徴があるので、比較すると差が出たりするかもしれません。

委員

例えば開業率だと、全国・都道府県・市町村で数値がわかると思いますので、他市比較はできると思います。

会長

皆さま、ありがとうございました。今いただいた意見を集約して、答申案の中に入れていきたいと思います。

それでは、案件4「その他」について、事務局から説明してください。

●案件4. その他

事務局

連絡事項が2点ございます。

(連絡事項の伝達)

先ほど委員の方から他市比較についてご意見をいただきました点について補足をしたいと思っております。

本日諮問させていただきました第2期総合戦略(素案)のP5をご覧ください。こちらで豊中市の人口について、出生・死亡数の自然増減の動向とP8からは転出・転入数の社会増減の動向の分析のイメージを掲載しています。まだすべての分析ができていないわけではありませんが、各地域の出生・死亡数や転出・転入でしたらどこから入ってきているのか、どこに出ていっているのかの割合を分析しています。また年齢別でも分析したいと思っています。

会長

それでは、これで豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会を閉会します。

ありがとうございました。

●閉会

令和元年度(2019年度)
第2期豊中市まち・ひと・しごと創生
総合戦略について

(答 申 案)

令和2年(2020年)1月
豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会

目次

I. 答申にあたって	1
II. 審議結果	2
III. 審議経過	3
IV. 審議会委員	3

<参考資料>

- 第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）

Ⅰ. 答申にあたって

国の地方創生の取組みに合わせ、豊中市は、平成27年(2015年)に「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」と「豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、「豊中市総合戦略」という)を策定しました。豊中市総合戦略では、将来の方向性として「まちの魅力にひとが集い、しごとが生まれ、未来につながる」を掲げ、5つの基本目標を基に取り組みを進められています。

豊中市では、現行の豊中市総合戦略が最終年を迎えたことから、第2期豊中市総合戦略の策定を進めており、当委員会では、令和元年(2019年)12月16日に、長内市長から当委員会に対し、「第2期豊中市総合戦略」の諮問を受けました。

委員会では、第2期豊中市総合戦略の策定に向け、第4次豊中市総合計画との違いを整理することや、新たに設定する総合戦略のKGI^{*}や基本目標のKPI^{*}の留意点について審議しました。

次のとおり審議結果をとりまとめましたので、今後の施策に活かしていただき、魅力あふれるまちにつながることを期待します。

令和2年(2020年)1月●日
豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会
会長 高橋 一夫

※KGI：重要目標達成指標のこと。組織の最終目標が達成されているかを計測するための指標をさす。

※KPI：重要業績評価指標のこと。組織の目標を達成するための重要な業績評価の指標を意味し、達成状況を定点観測することで、目標達成に向けた組織のパフォーマンスの動向を把握できる。

II. 審議結果

(1) 第2期豊中市総合戦略の考え方について

1	総合戦略として、人口を増加させる政策にフォーカスすることはよい。
2	計画期間が3年間であることから、経年的に見えづらいK P I もあるので、数字が形骸化しないよう、短期の目標と長期の目標で分類する必要がある。
3	第2期豊中市総合戦略では、K P I の要因分析をするにあたり、地域別の分析や他市との比較も考慮する必要がある。
4	市単独でS D G s の達成に向けて頑張るというより、市民や企業とも一緒にS D G s を推進できるような環境づくりが必要である。第2期豊中市総合戦略では、K P I の設定にあたっては、行政だけでなく関係者を巻き込み度合いを把握できるような指標に着目するなど、K P I の達成状況とS D G s の推進を一体として把握できるよう工夫されたい。

(2) 第2期豊中市総合戦略の構成(K G I ・ K P I 等)について

1	第2期豊中市総合戦略でターゲットとしている子育て世代・働き盛り世代に数値の取り方を絞ったことはよい。
2	K P I にある市民意識調査は、すべてプラスに感じている人の割合になっているが、マイナスに感じている人の割合の数値の変化を定点観測していく視点もあってもよい。
3	K P I では、北摂地域や豊中市に隣接する市の数値と比較することを検討されたい。比較することで、市民にとって数値のもつ意味がわかりやすくなる。

(3) 第2期総合戦略の推進にあたって

1	市民意識調査の自由記述欄は、市民の心配事や気になることがわかるので、次の施策を考えるヒントになる。また他市と施策を比較することで、新たなサービスのあり方が検討できる可能性もある。
2	要因分析については専門的知識を有するもの、例えば、とよなか都市創造研究所を活用して分析を進めることも検討されたい。
3	基本目標(2)のKPIに開業率と廃業率があるが、昨今事業継承が問題になっているので、行政として廃業する人と開業する人をつなげる仕組みも考える必要がある。

Ⅲ. 審議経過

回	開催日程	内容
第3回	令和元年 12月16日（月）	第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の諮問について
第4回	令和2年 1月20日（月）	答申案について

Ⅳ. 審議会委員

	区分	名前	所属等
1	学識経験者	○ 石川 路子	甲南大学経済学部 教授
2		◎ 高橋 一夫	近畿大学経営学部 教授
3		山下 香	一級建築士事務所 状況設計室 代表
4	商工業団体代表	吉村 直樹	豊中商工会議所 副会頭
5	金融業代表	池田 正和	北おおさか信用金庫 業務推進部 地域支援室 室長
6	報道業代表	古川 圭子	株式会社毎日放送アナウンサー室 アナウンス部 マネージャー
7	労働者代表	重長 寿典	連合大阪豊中地区協議会 議長
8	市民	甲斐 響太郎	

◎会長、○会長職務代理者

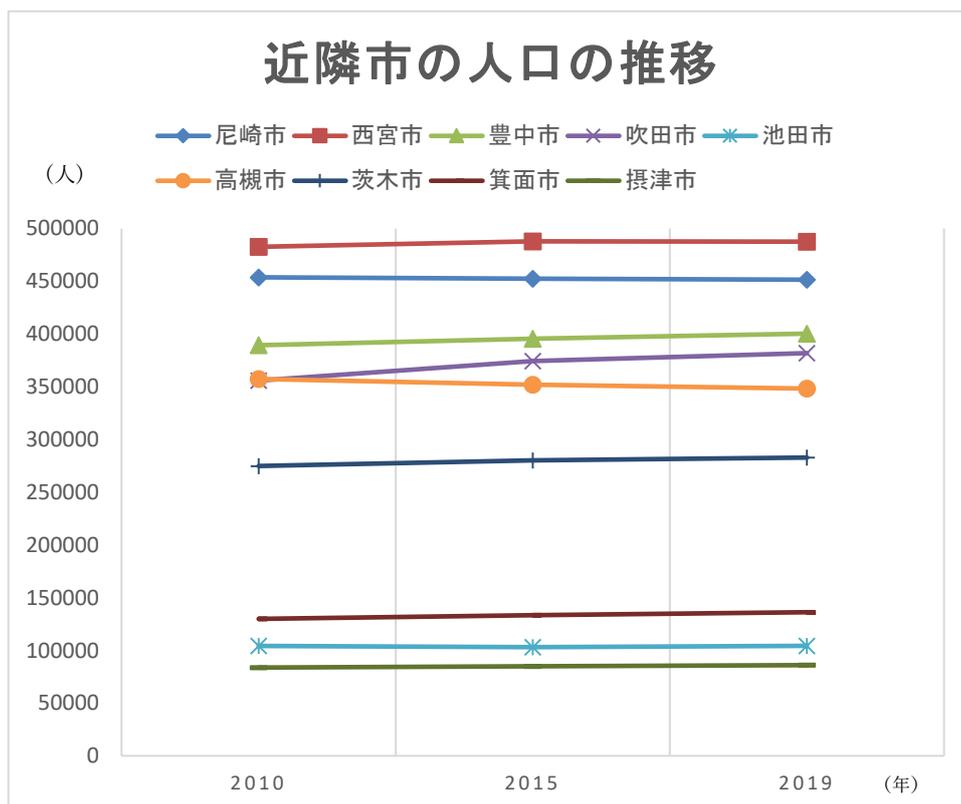
※区分ごとに五十音順、敬称略、役職等は令和元年(2019年)12月1日現在

豊中市の人口について

(1) 豊中市人口ビジョンについて

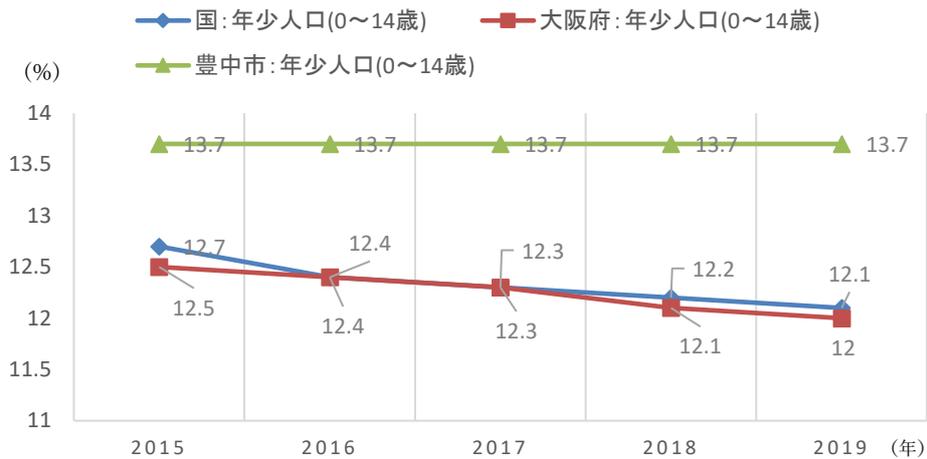
- 本市では、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、豊中市の人口等の現状分析を行い、今後めざすべき将来の方向と人口の将来展望を示す「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下、「豊中市人口ビジョン」という。）を、2015年(平成27年)に策定しました。
- 豊中市人口ビジョンでは、2040年(令和20年)における将来人口を38万人と展望しています。
- 第4次豊中市総合計画では、目標年次である2027年度(令和9年度)及び前期基本計画の目標年次である2022年度(令和4年度)の本市の人口を約40万人と想定しています。
- 豊中市人口ビジョンは、令和2年度の将来人口を397,578人と展望しているが、2019年(令和元年)12月1日現在の推計人口が400,496人と誤差の範囲とみなし、豊中市人口ビジョンの見直しを行わないこととします。
- ただし、人口減少対策においては、様々な視点をもつことが重要であることから、各地域の人口動向の分析を行うとともに、短期では前期基本計画の想定人口、長期では豊中市人口ビジョンの将来展望を見ていくこととします。

【参考】

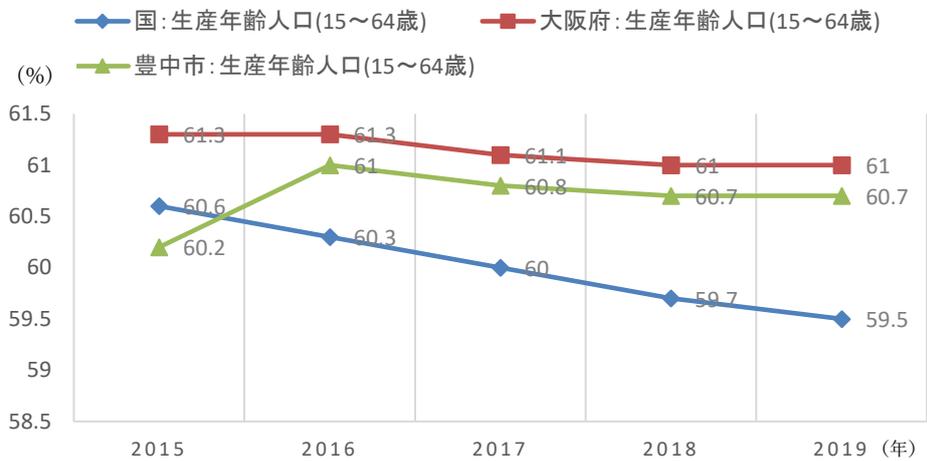


資料：大阪府推計人口、兵庫県推計人口

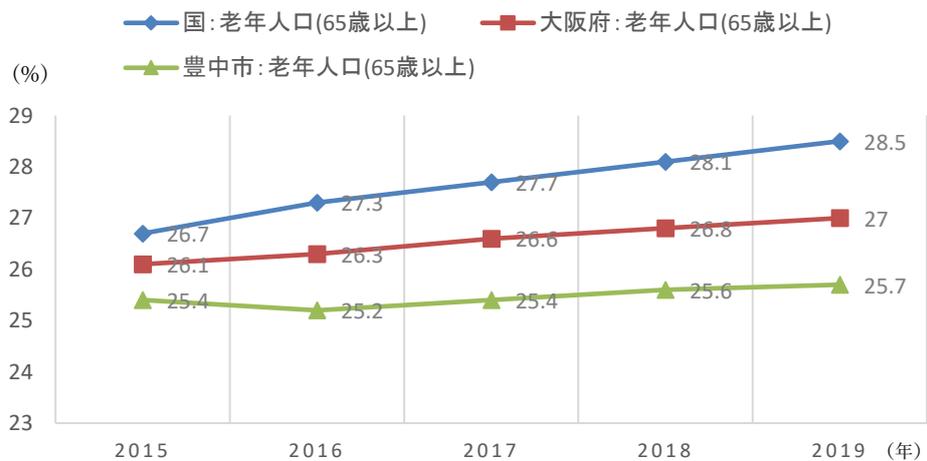
年少人口の割合



生産年齢人口の割合

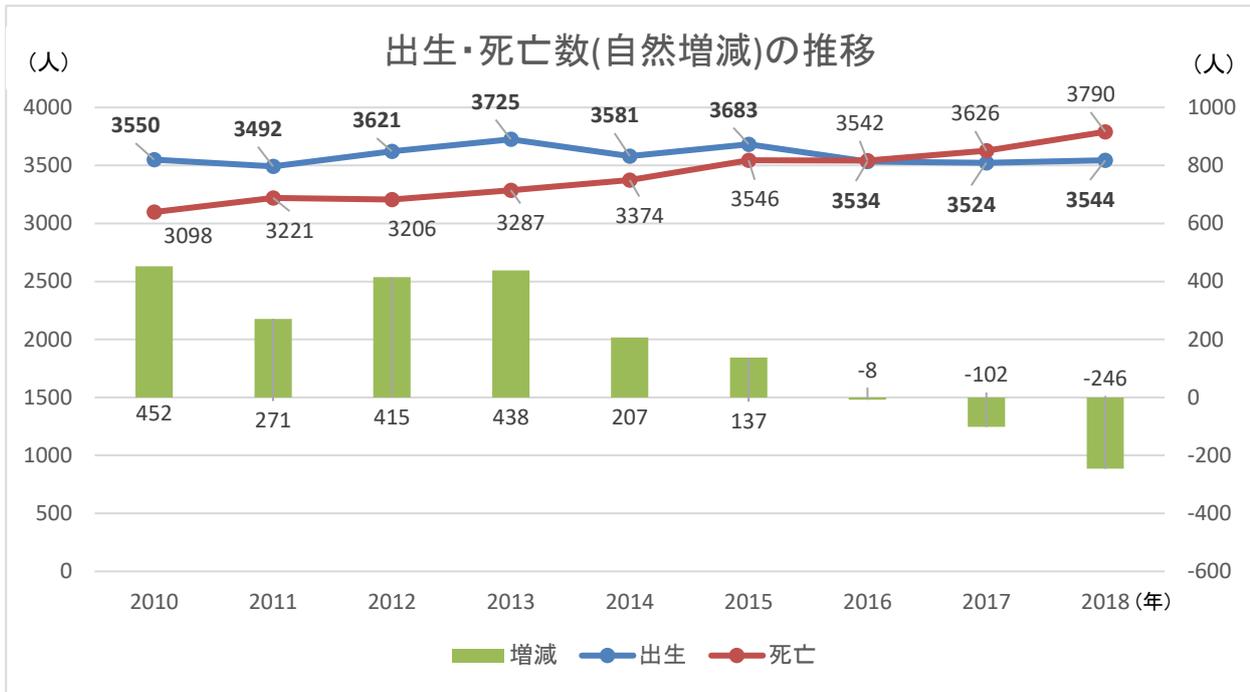


老年人口に割合

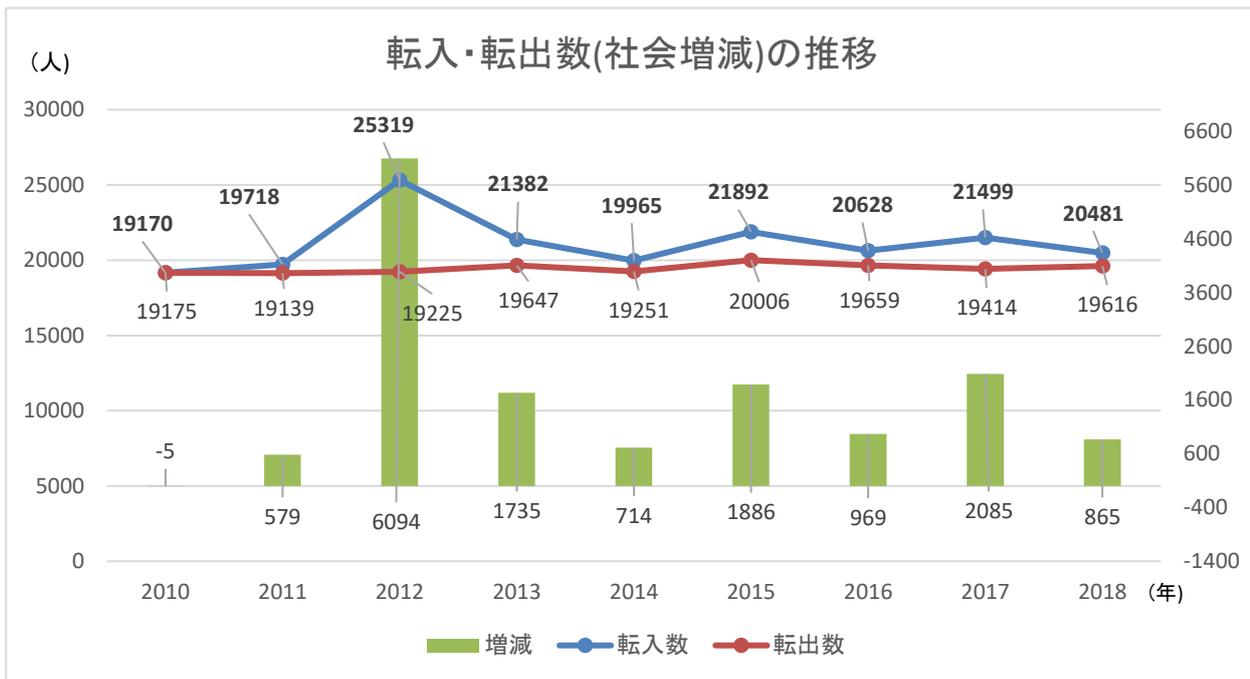


○本市の年少人口の割合は、直近5年間維持しており、国・大阪府を上回っています。

○本市の生産年齢人口の割合は、2016年に国を上回り、以後同程度を維持しています。



資料: 豊中市統計書より(各年 4 月 1 日現在)

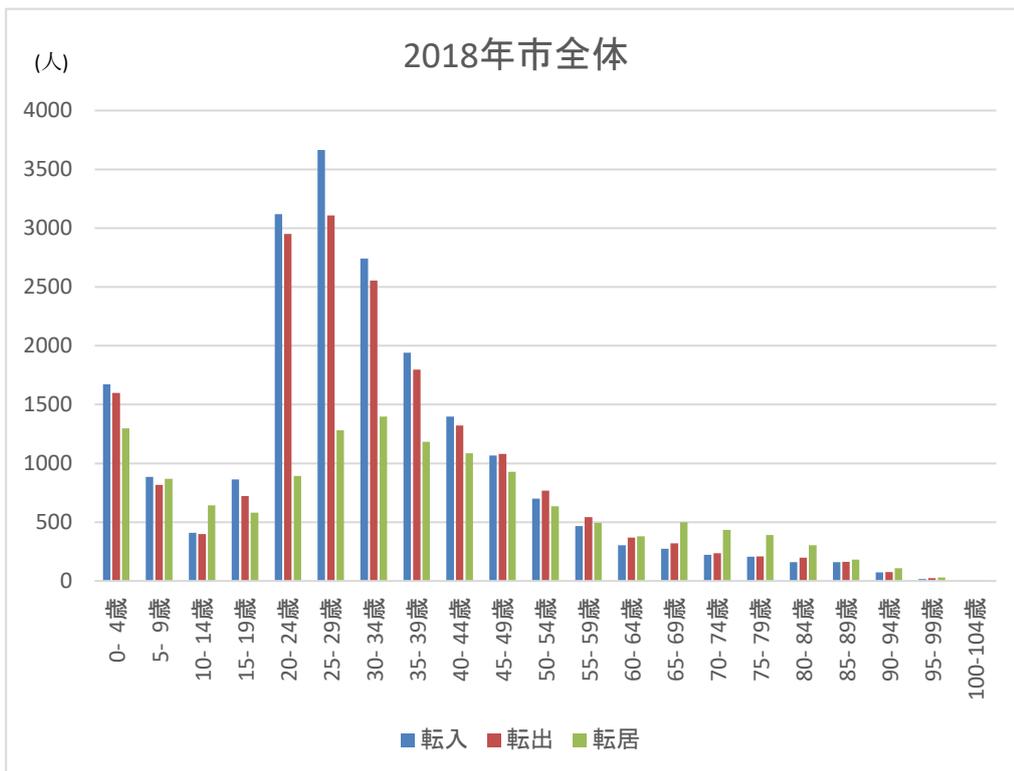
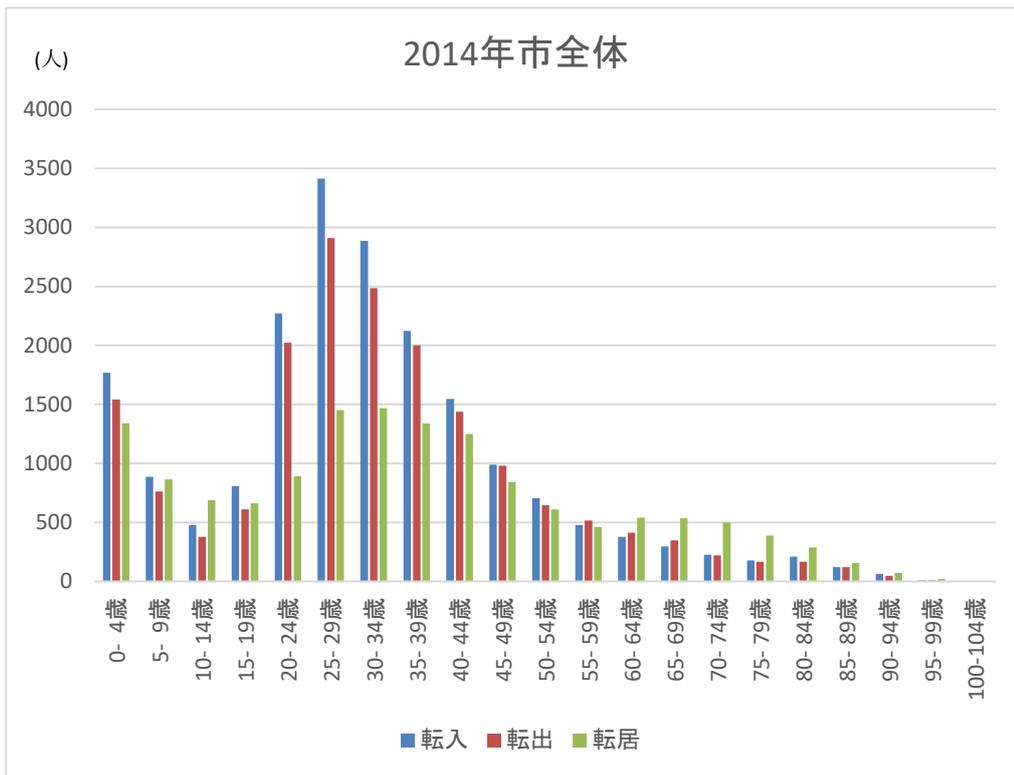


資料: 豊中市統計書より(各年 4 月 1 日現在)

○本市の出生・死亡数の推移をみると、2016年(平成28年)以降、毎年出生数が死亡数を下回る「自然減」が続いています。

○本市の転入・転出数の推移をみると、2011年(平成22年)以降、毎年転入数が転出数を上回る「社会増」が続いています。

○2016年(平成28年)以降は、自然減ですが、社会増が上回っているため、市の人口は増加しています。

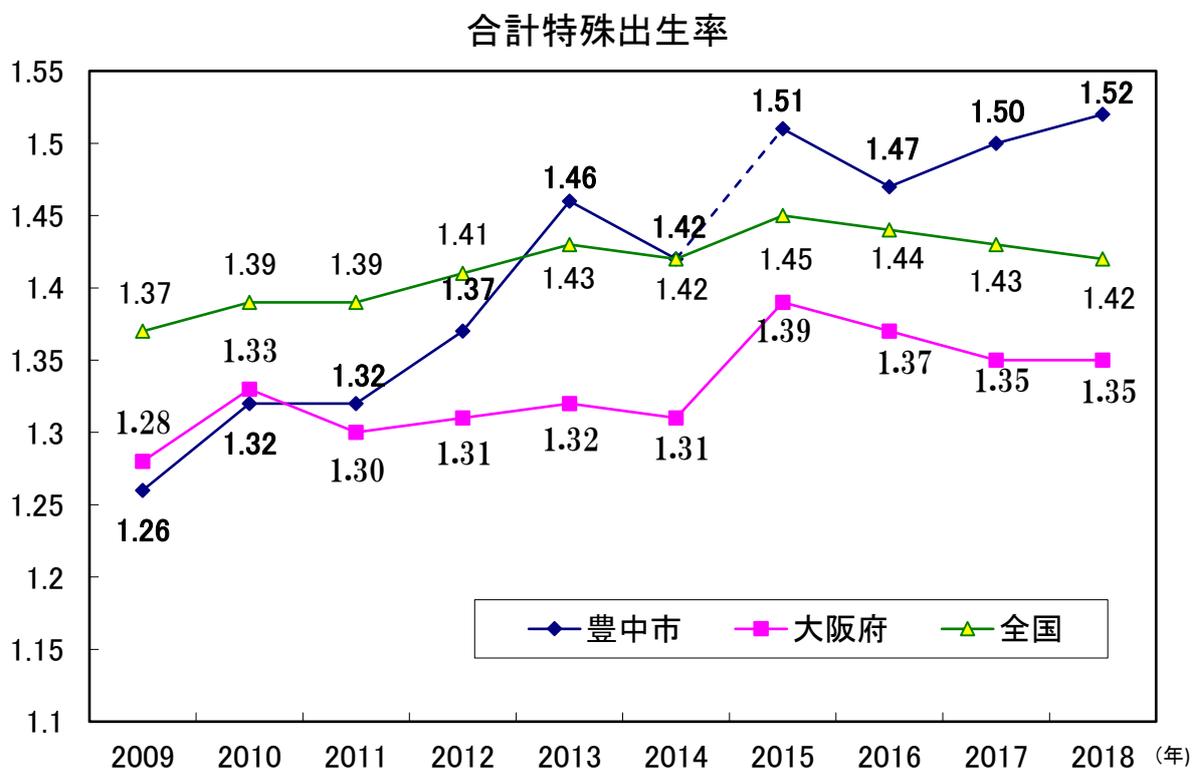


資料:住民基本台帳

○年齢別の本市の社会移動の特徴としては、0～44歳までは転入超過となっており、50歳以上は転出超過になっています。また、65歳以上は転居数が多くなっています。

(2) 出生・死亡数(自然増減)の動向

○本市の合計特殊出生率は、近年全国・大阪府の数値を上回っています。



資料：住民基本台帳・政府統計

※大阪府、全国の合計特殊出生率は推計人口及び人口動態統計による。

豊中市の合計特殊出生率は住民基本台帳及び人口動態統計をもとに独自に算出したもの。

※最新年の値は概数であり、後日変更の可能性がある。

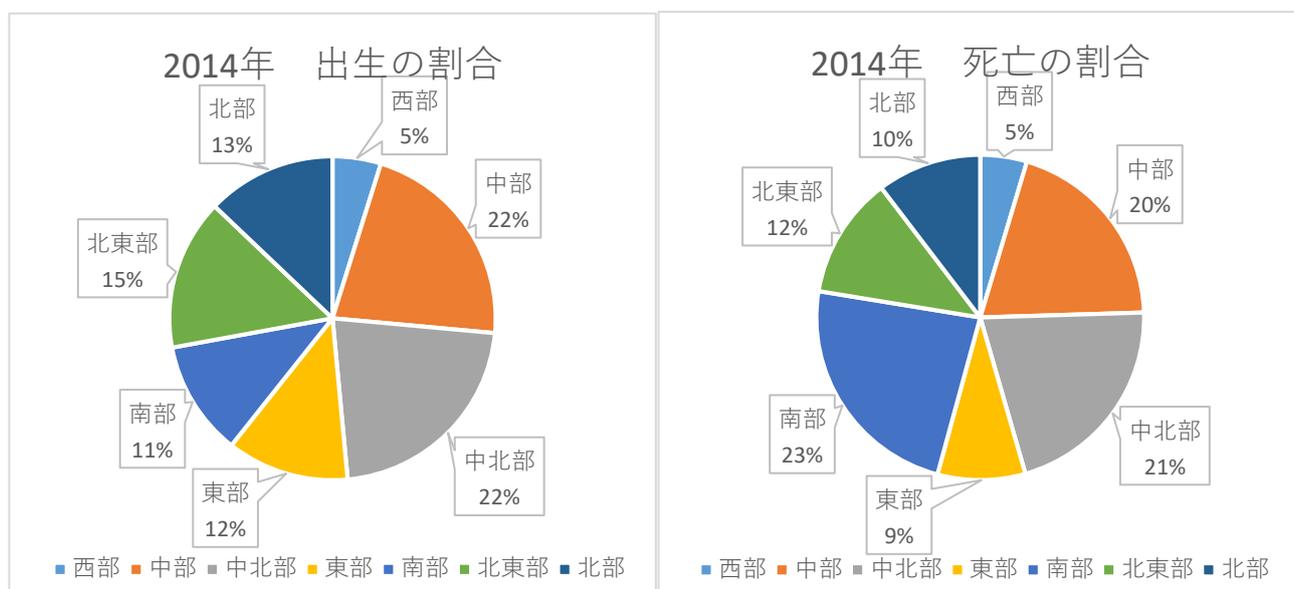
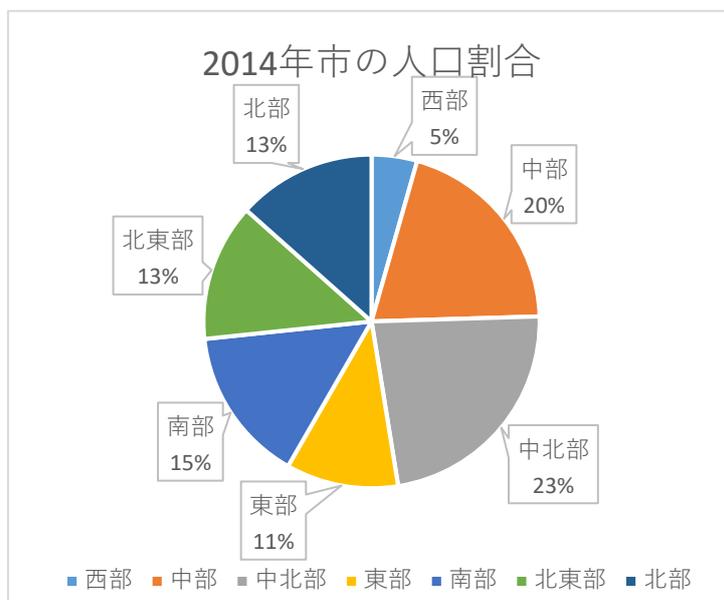
※合計特殊出生率とは、女性の出産可能年齢と仮定される15～49歳の年齢別出生率を合計したもの。

1人の女性が生涯に出産する平均の子ども数とみなされる。

※出生率算出に用いる女性人口について

豊中市は、平成26年(2014年)までは外国人住民を含む女性人口を用いていたが、平成27年(2015年)以降は国・府の算出方法にあわせるため、外国人住民を除く日本人の女性人口を用いている。

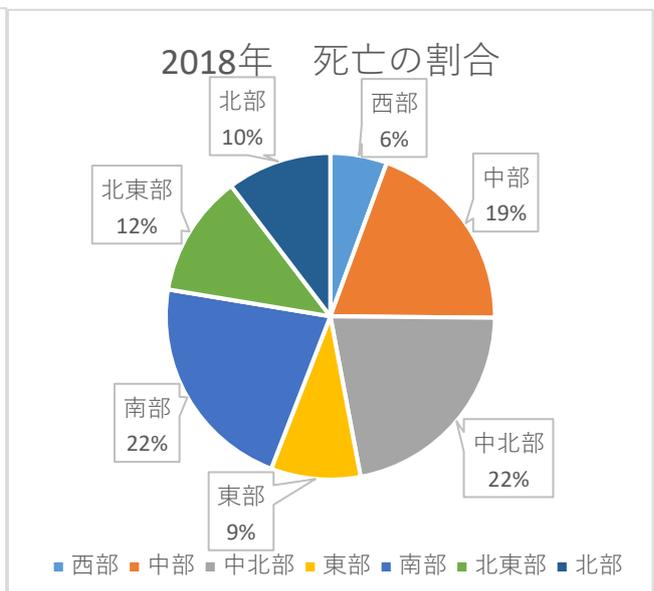
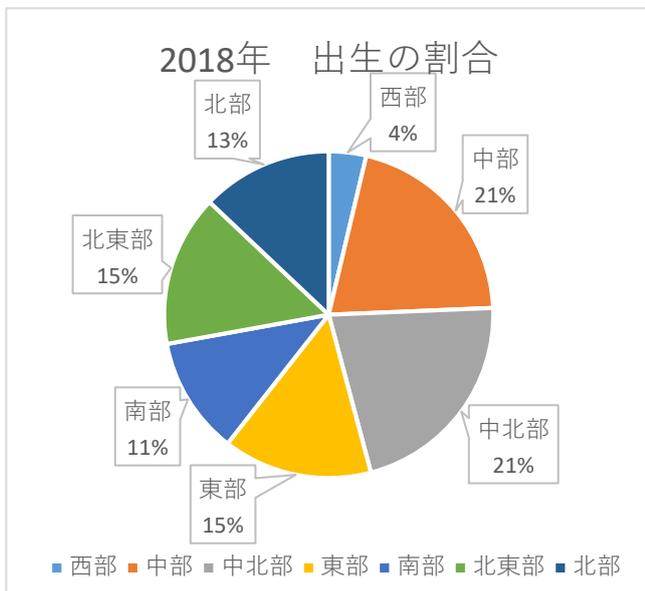
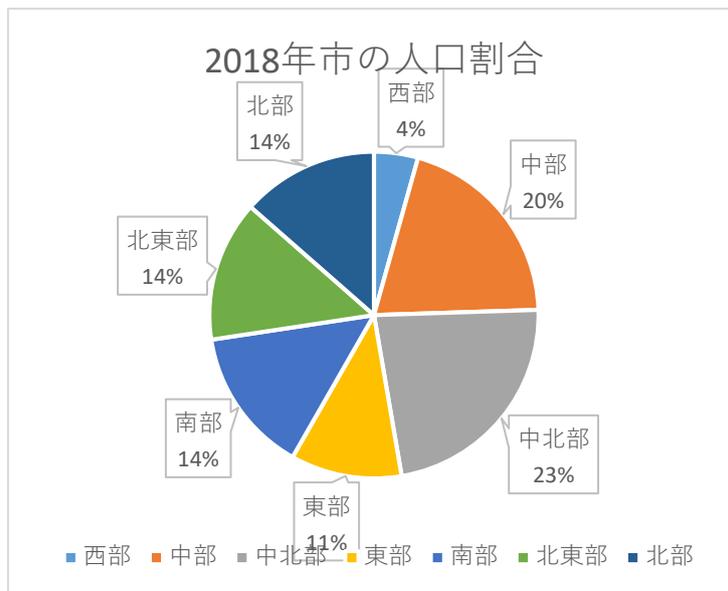
○本市の地域ごと(都市計画マスタープランで定めている7地域区分)の人口と出生数・死亡数の割合は、以下のとおりです。



資料:住民基本台帳

○2014年の出生の割合をしてみると、市の人口割合に比べ、南部地域では少し割合が低くなっています。

○死亡の割合では、南部地域の割合が高くなっています。



資料:住民基本台帳

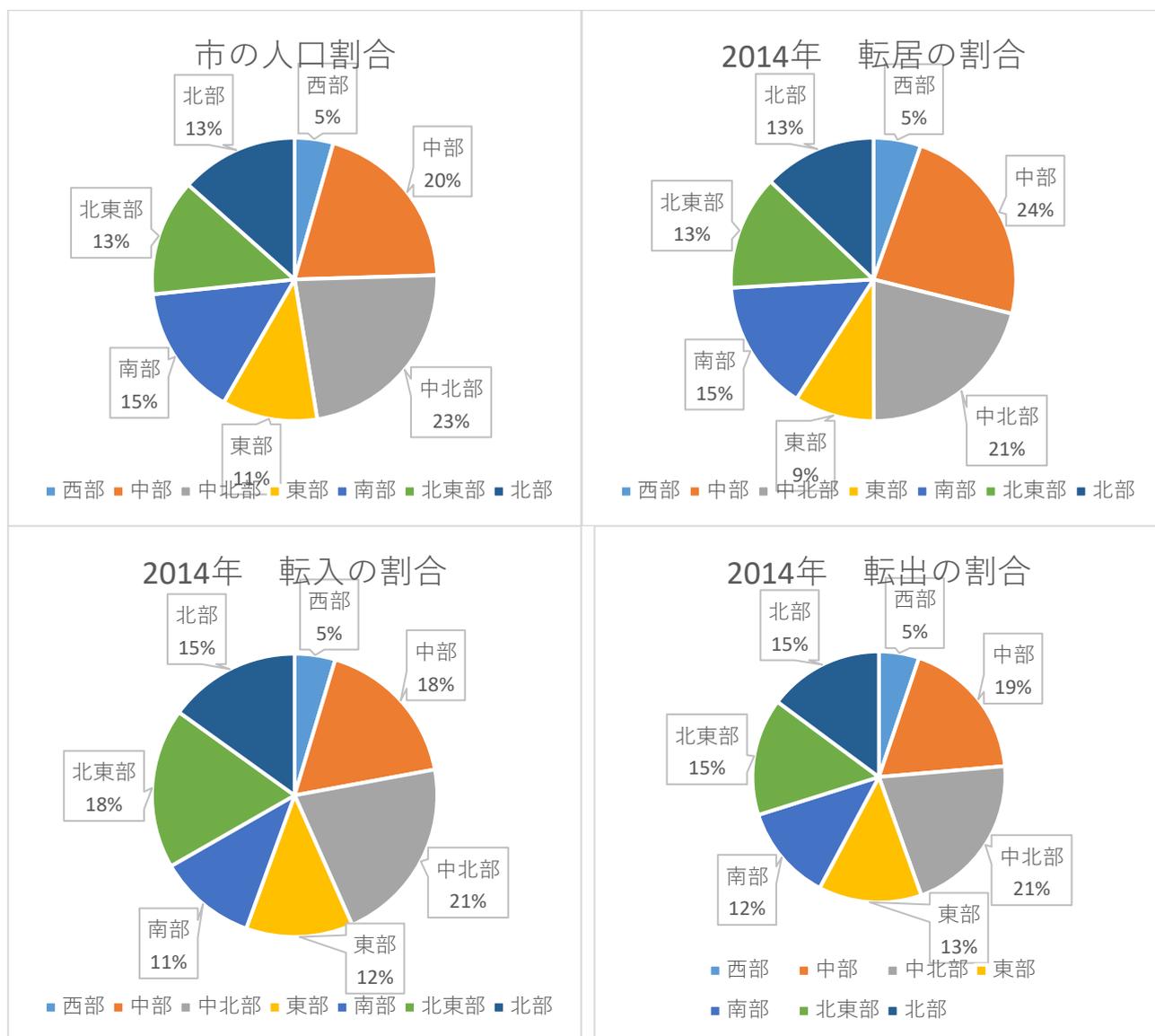
○2014年と比べると各地域の人口割合に大きな変化は見られません。

○2014年に比べると、東部地域での出生の割合が増えています。

○死亡の割合では、2018年も依然として、南部地域の割合が高くなっています。

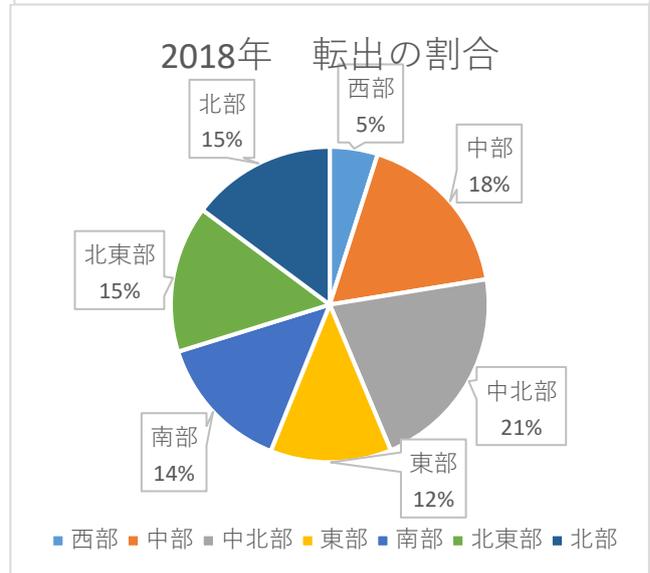
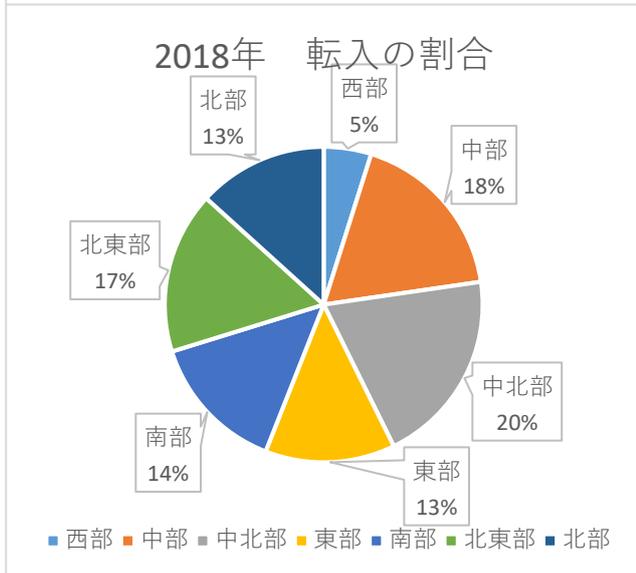
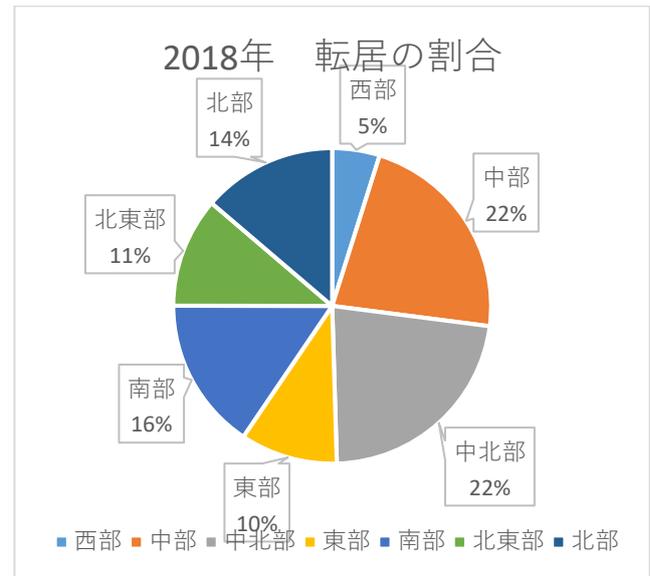
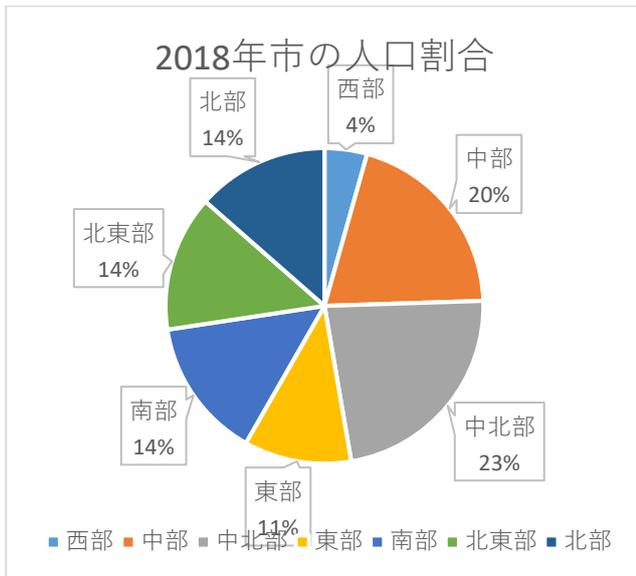
(3) 転出・転入数(社会増減)の動向

○本市の地域ごと(都市計画マスタープランで定めている7地域区分)の人口と転入数・転出数・転居数の割合は、以下のとおりです。



資料:住民基本台帳

○2014年の市の転入・転出の割合をしてみると、北部及び北東部でともに多くなっています。



資料:住民基本台帳

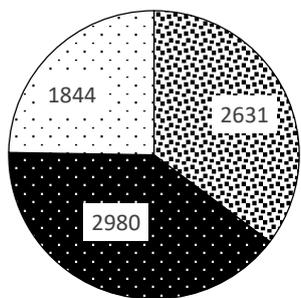
○2014年と比べると、北東部の転入・転出の割合は依然として高いままです。また、南部地域の転入・転出の割合が増加しています。

○次に北部・北東部・南部の3地域について分析します。

なお、他の4地域については参考資料として巻末に掲載します。

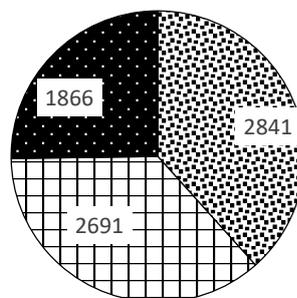
●北部地域

2014年北部社会移動数



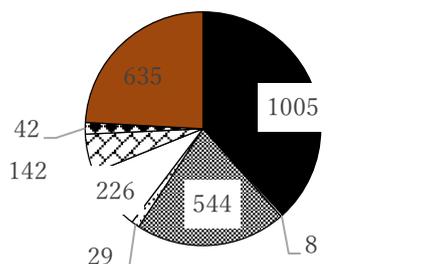
■ 転出 ■ 転入 □ 転居

2018年北部社会移動数



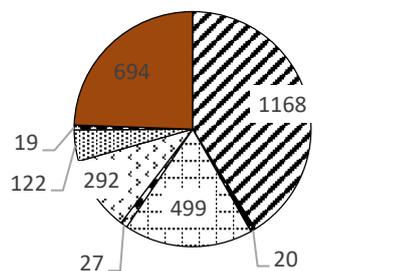
■ 転出 ■ 転入 ■ 転居

2014年転出先の割合



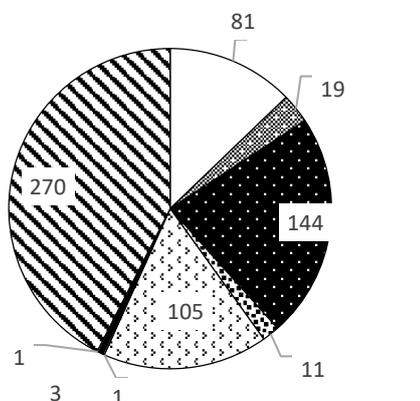
■ その他地域 □ 伊丹市 ■ 関東圏 □ 西宮市
□ 大阪市 ■ 大阪府内 □ 尼崎市 ■ 北摂

2018年転出先の割合



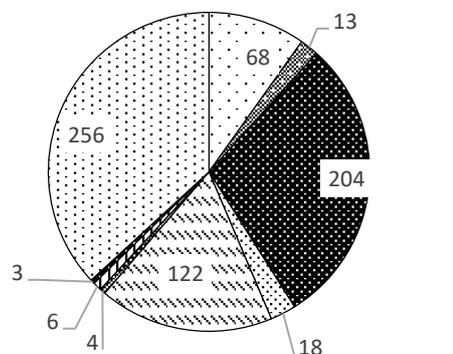
■ その他地域 ■ 伊丹市 □ 関東圏 ■ 西宮市
□ 大阪市 ■ 大阪府内 □ 尼崎市 ■ 北摂

2014年北摂地域の詳細



□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 ■ 摂津市 □ 池田市
□ 島本町 ■ 能勢町 □ 豊能町 ■ 箕面市

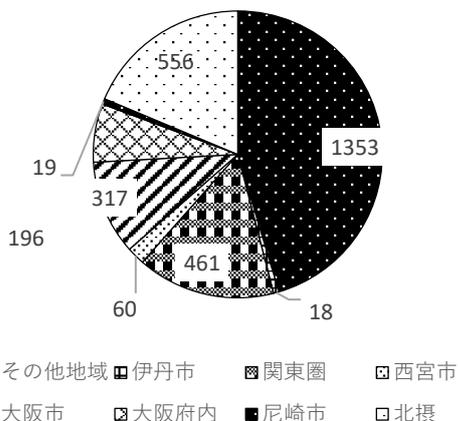
2018年北摂地域の詳細



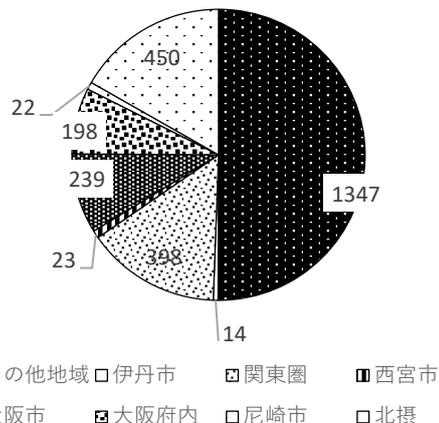
□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 ■ 摂津市 □ 池田市
■ 島本町 □ 能勢町 ■ 豊能町 □ 箕面市

資料:住民基本台帳、単位:人

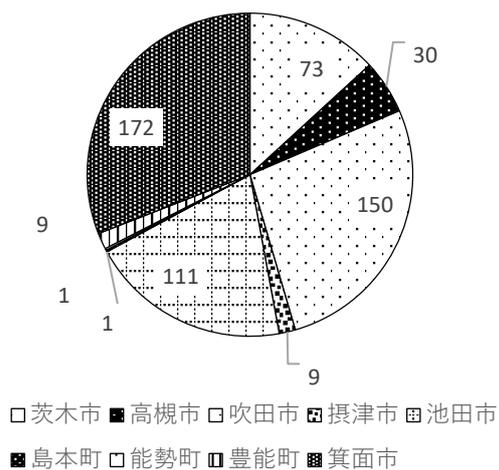
2014年転入先の割合



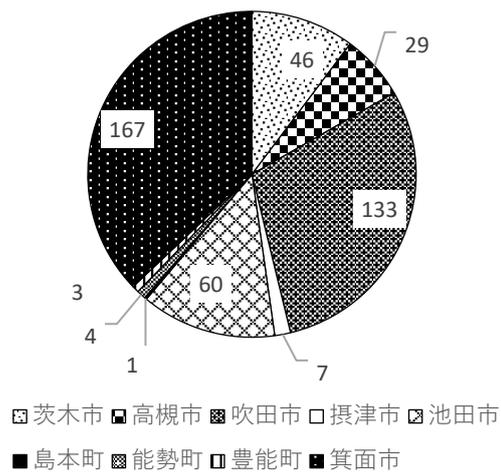
2018年転入先の割合



2014年北摂地域の詳細



2018年北摂地域の詳細

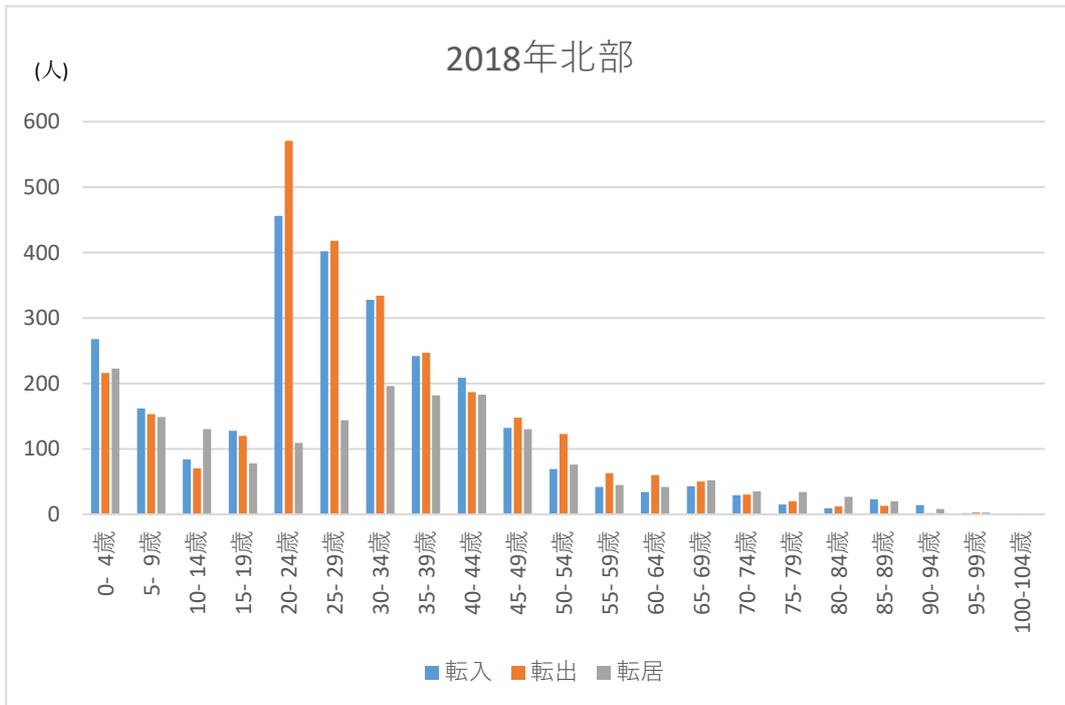
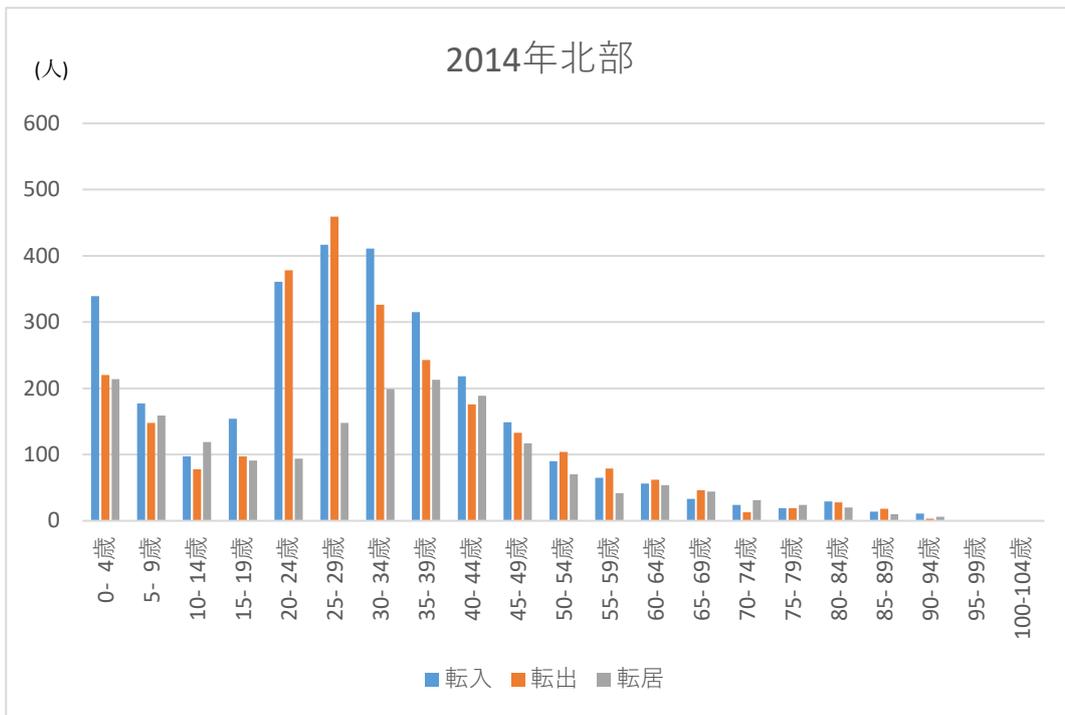


資料:住民基本台帳、単位:人

○北部地域では、転出数が増加し、転入数が減少しています。

○転出先を見てみると、関東圏は減少していますが、大阪市や北摂地域は増加しています。北摂地域では、吹田市や池田市が増加しています。

○転入先を見てみると、転出先と同様に大阪市・北摂地域は減少しています。北摂地域では、池田市は減少していますが、箕面市は増加しています。



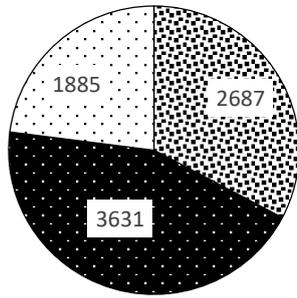
資料:住民基本台帳

○年代別に見てみると、20代は転出超過が続いており、2018年は45歳以上も転出超過になっています。

○しかし、依然として、0～19歳までは転入超過が続いています。

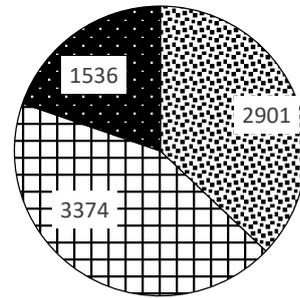
●北東部地域

2014年北東部社会移動数



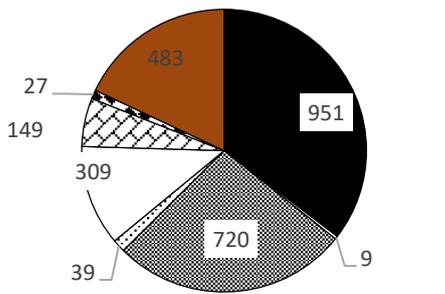
■ 転出 ■ 転入 □ 転居

2018年北東部社会移動数



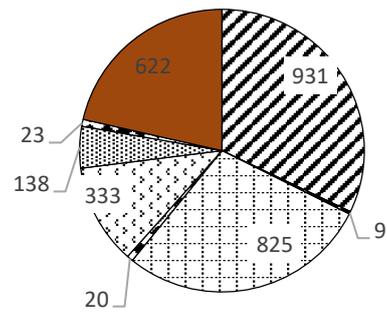
■ 転出 ■ 転入 ■ 転居

2014年転出先の割合



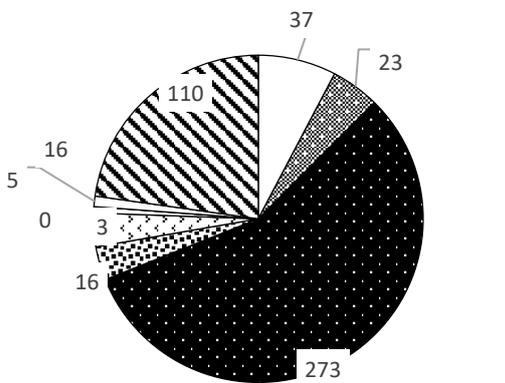
■ その他地域 □ 伊丹市 ■ 関東圏 □ 西宮市
□ 大阪市 □ 大阪府内 ■ 尼崎市 ■ 北摂

2018年転出先の割合



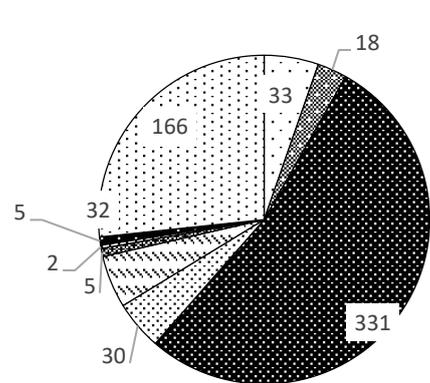
■ その他地域 ■ 伊丹市 □ 関東圏 ■ 西宮市
□ 大阪市 ■ 大阪府内 ■ 尼崎市 ■ 北摂

2014年北摂地域の詳細



□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 ■ 摂津市 □ 池田市
□ 島本町 ■ 能勢町 □ 豊能町 ■ 箕面市

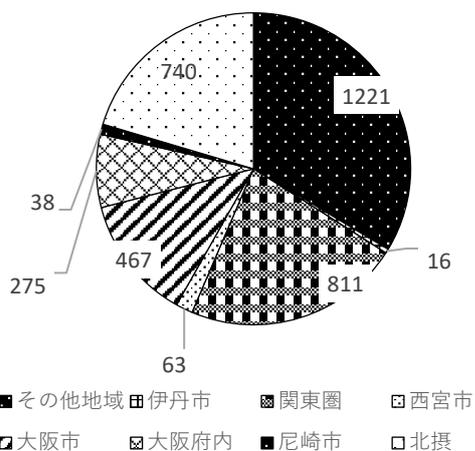
2018年北摂地域の詳細



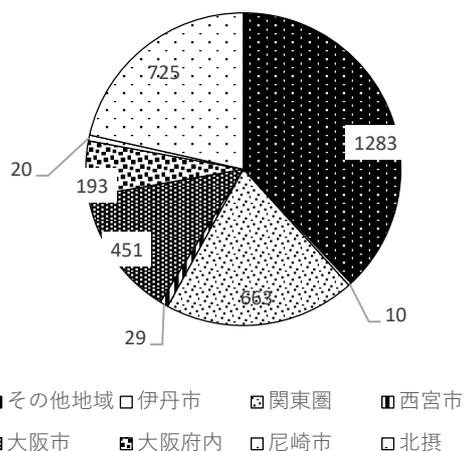
□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 ■ 摂津市 □ 池田市
■ 島本町 ■ 能勢町 ■ 豊能町 ■ 箕面市

資料:住民基本台帳、単位:人

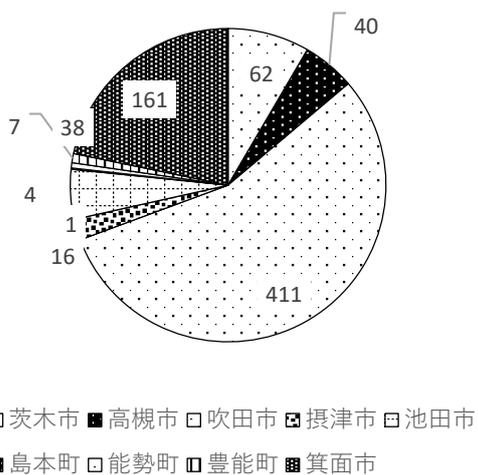
2014年転入先の割合



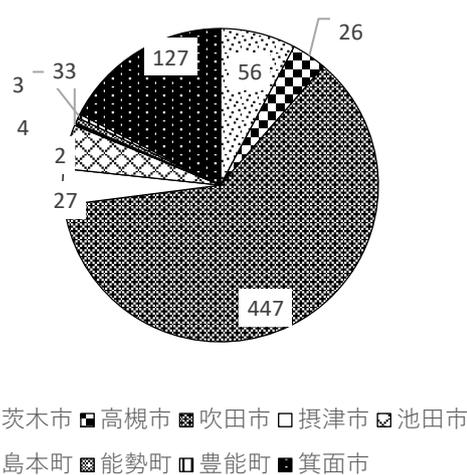
2018年転入先の割合



2014年北摂地域の詳細



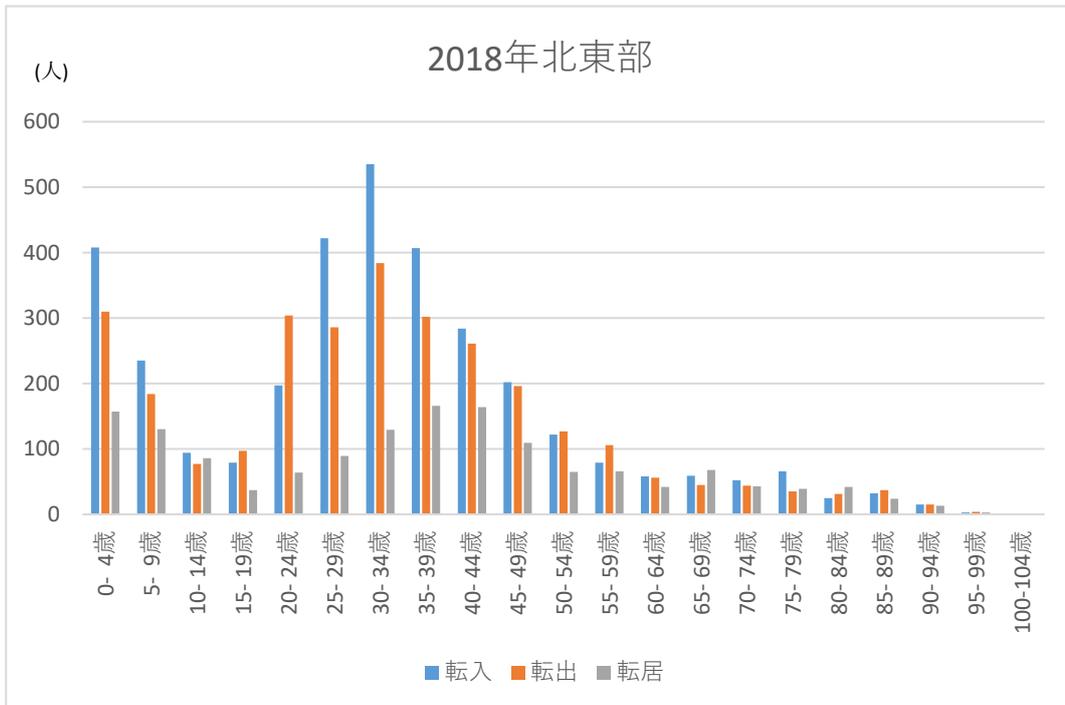
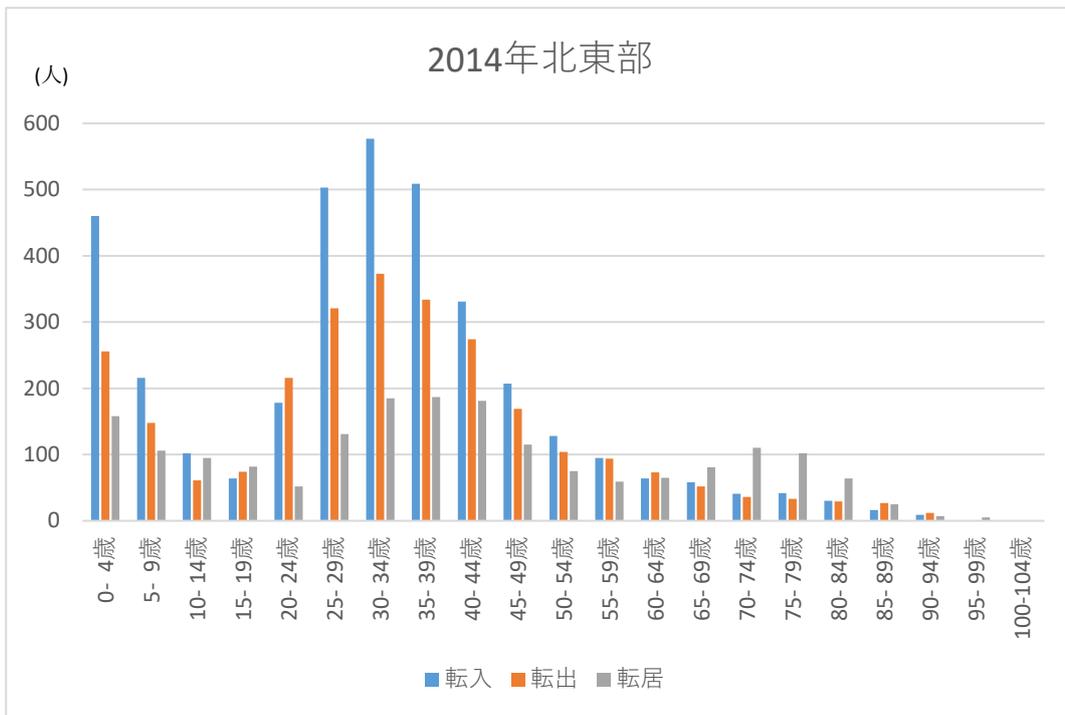
2018年北摂地域の詳細



資料:住民基本台帳、単位:人

○転出先をしてみると、関東圏や北摂地域の割合が増加しています。北摂地域では、吹田市の割合は減少していますが、箕面市の割合が増加しています。

○転入先をしてみると、関東圏の割合は減少しています。北摂地域では、箕面市の割合は減少していますが、吹田市の割合は増加しています。



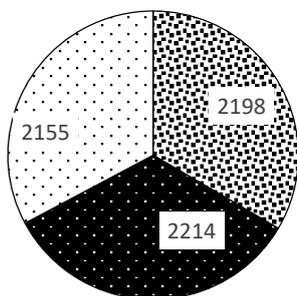
資料:住民基本台帳

○年代別に見てみると、15～24歳は転出超過が続いています。2018年は50歳以上でも転出超過になっています。

○しかし、依然として、0～14歳と25～49歳は転入超過が続いています。

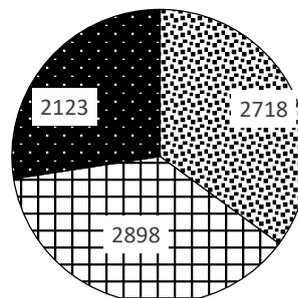
●南部地域

2014年南部社会移動数



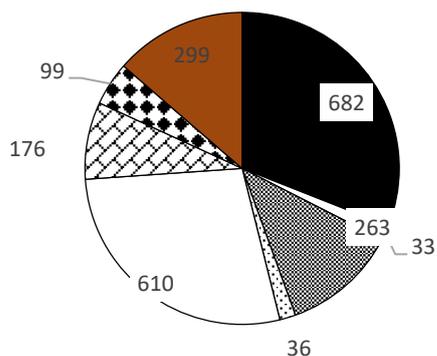
■ 転出 ■ 転入 □ 転居

2018年南部社会移動数



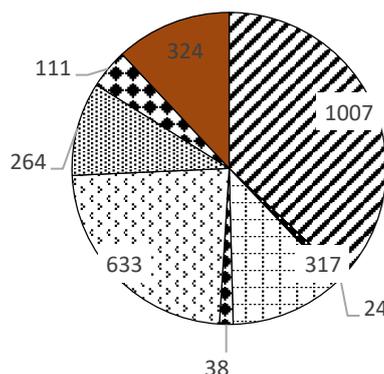
■ 転出 □ 転入 ■ 転居

2014年転出先の割合



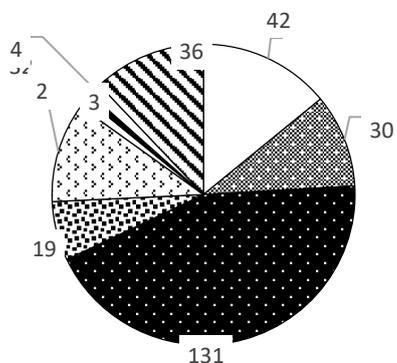
■ その他地域 □ 伊丹市 ■ 関東圏 □ 西宮市
□ 大阪市 ■ 大阪府内 ■ 尼崎市 ■ 北摂

2018年転出先の割合



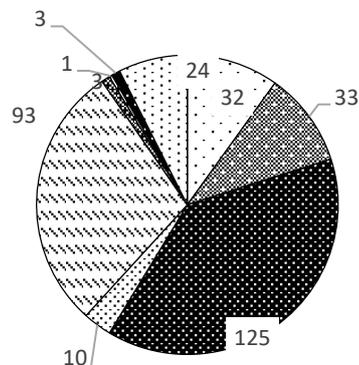
■ その他地域 ■ 伊丹市 □ 関東圏 ■ 西宮市
□ 大阪市 ■ 大阪府内 ■ 尼崎市 ■ 北摂

2014年北摂地域の詳細



□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 ■ 摂津市 □ 池田市
□ 島本町 ■ 能勢町 □ 豊能町 ■ 箕面市

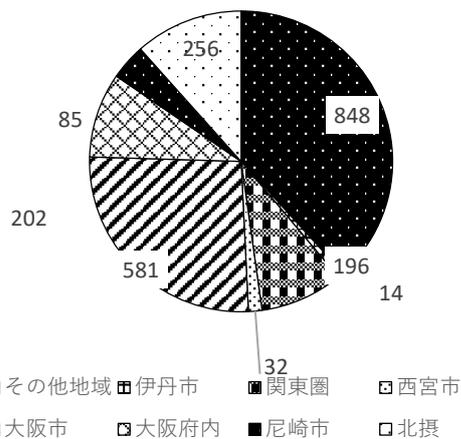
2018年北摂地域の詳細



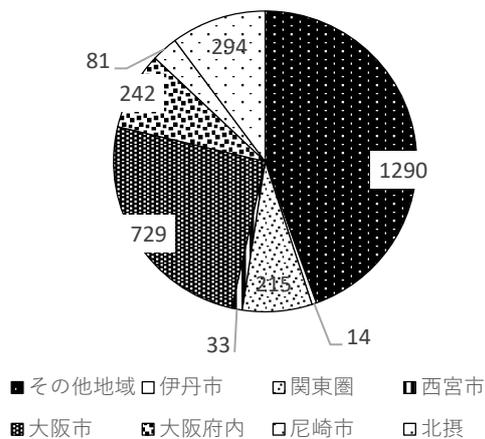
□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 ■ 摂津市 □ 池田市
■ 島本町 ■ 能勢町 ■ 豊能町 □ 箕面市

資料:住民基本台帳、単位:人

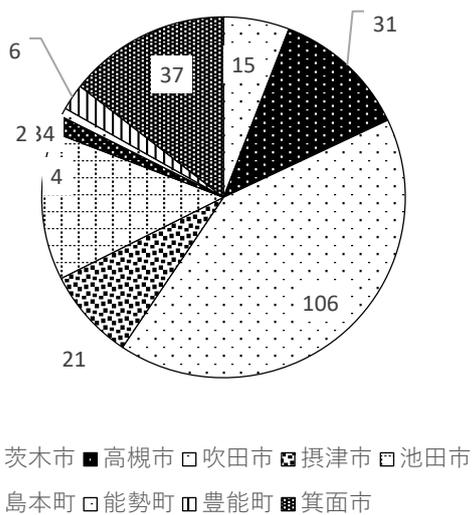
2014年転入先の割合



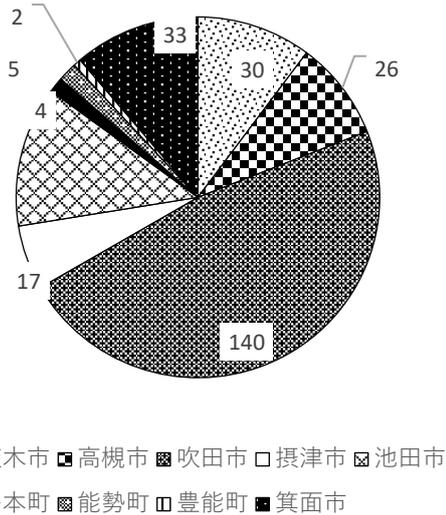
2018年転入先の割合



2014年北摂地域の詳細



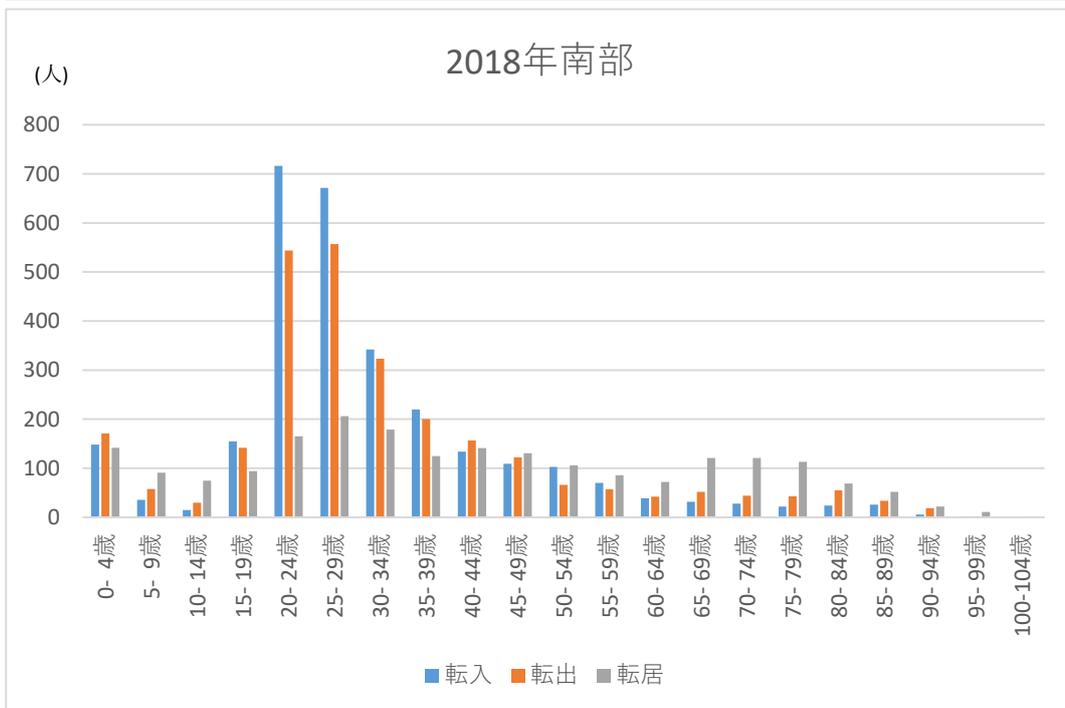
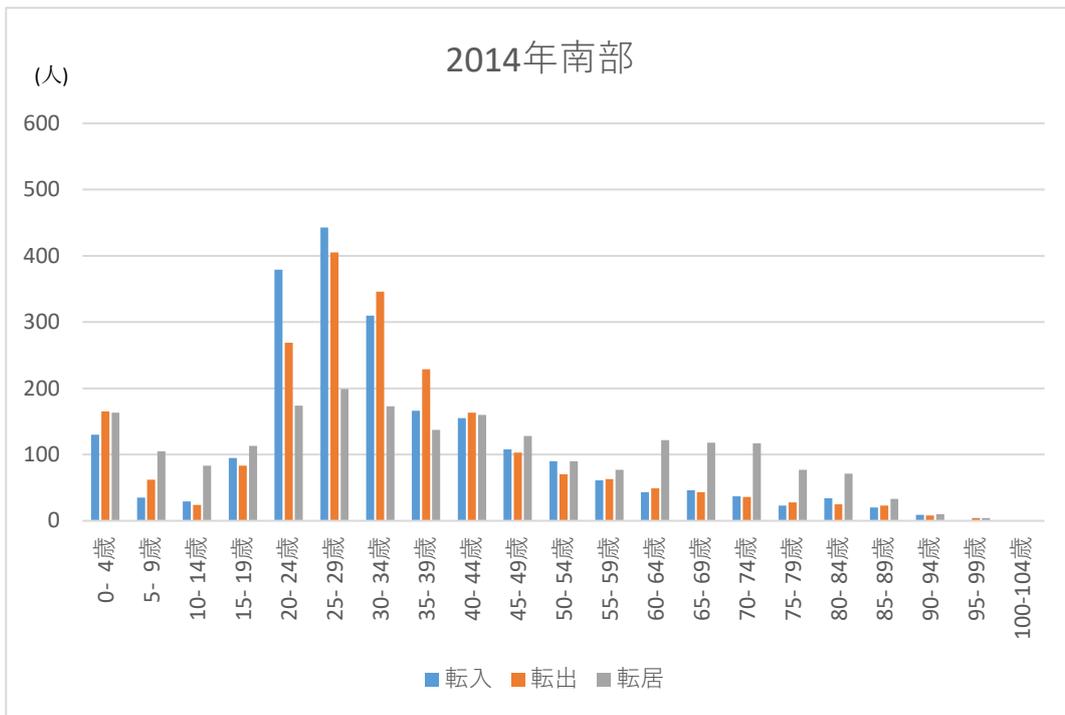
2018年北摂地域の詳細



資料:住民基本台帳、単位:人

○転出先を見てみると、大阪市の割合は減少しています。北摂地域では、茨木市・吹田市・箕面市の割合が減少していますが、池田市は大幅に増加しています。

○転入先を見てみると、その他地域は増加していますが、大阪市の割合は減少しています。北摂地域では、箕面市は減少していますが、茨木市・吹田市の割合は増加しています。



資料:住民基本台帳

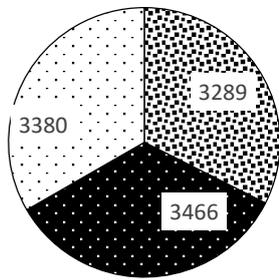
○年代別に見てみると、15～29歳の転入超過は続いています。2018年では、30～39歳も転入超過になっています。

○しかし、依然として、0～9歳及び40代の転出超過が続いています。

<参考>

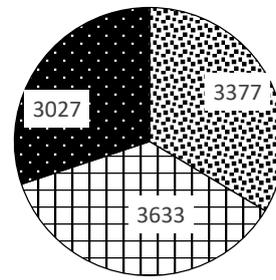
●中部地域

2014年中部社会移動数



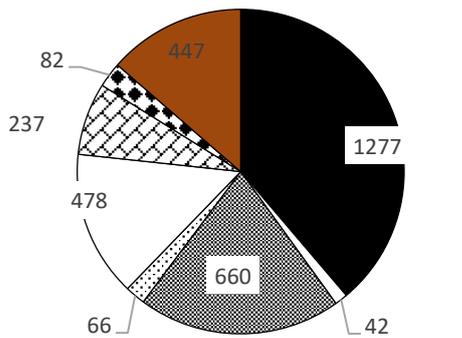
■ 転出 ■ 転入 □ 転居

2018年中部社会移動数



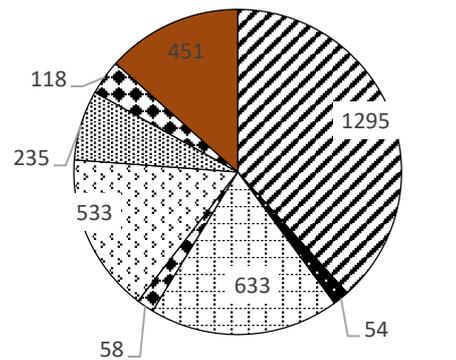
■ 転出 □ 転入 ■ 転居

2014年転出先の割合



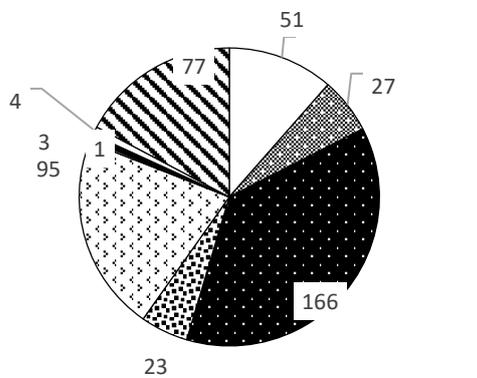
■ その他地域 □ 伊丹市 ■ 関東圏 □ 西宮市
□ 大阪府内 ■ 大阪府 □ 尼崎市 ■ 北摂

2018年転出先の割合



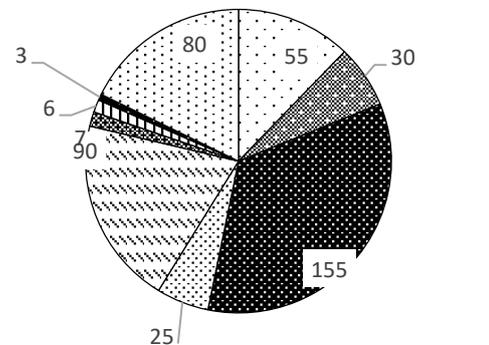
■ その他地域 ■ 伊丹市 □ 関東圏 □ 西宮市
□ 大阪府内 ■ 大阪府 □ 尼崎市 ■ 北摂

2014年北摂地域の詳細



□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 □ 摂津市 □ 池田市
□ 島本町 ■ 能勢町 □ 豊能町 ■ 箕面市

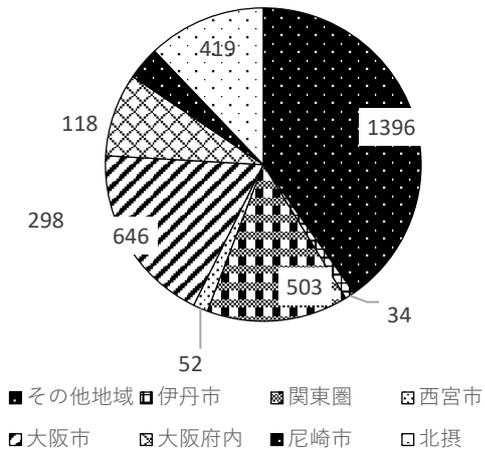
2018年北摂地域の詳細



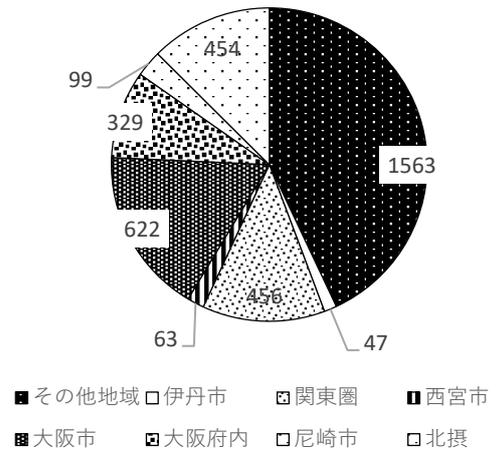
□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 □ 摂津市 □ 池田市
■ 島本町 □ 能勢町 ■ 豊能町 □ 箕面市

資料:住民基本台帳、単位:人

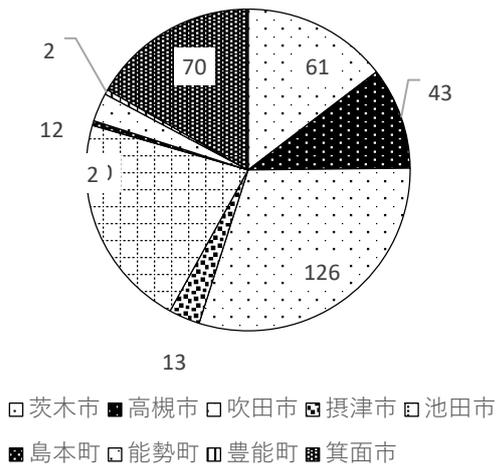
2014年転入先の割合



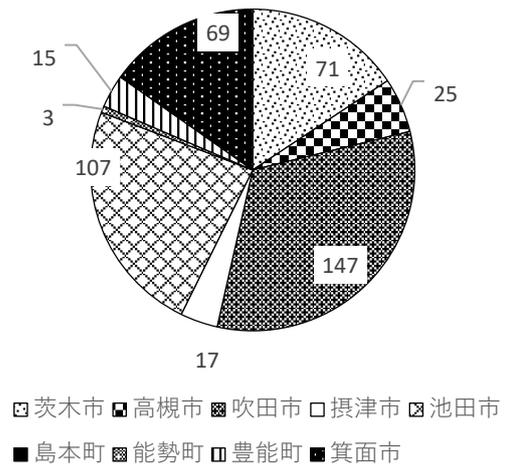
2018年転入先の割合



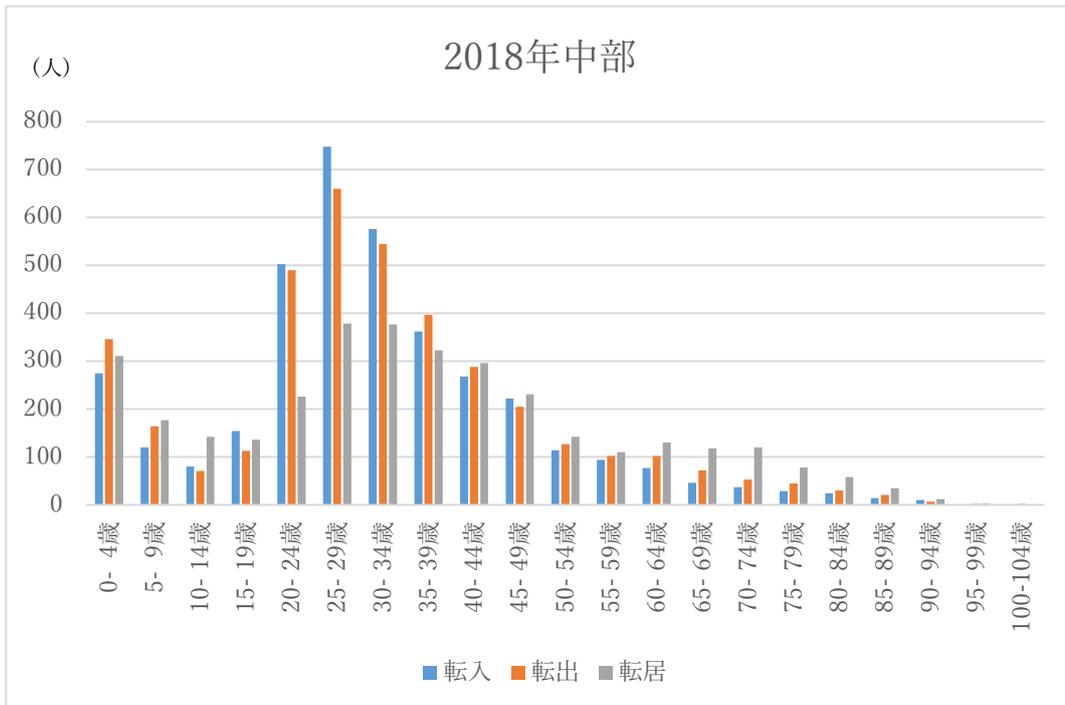
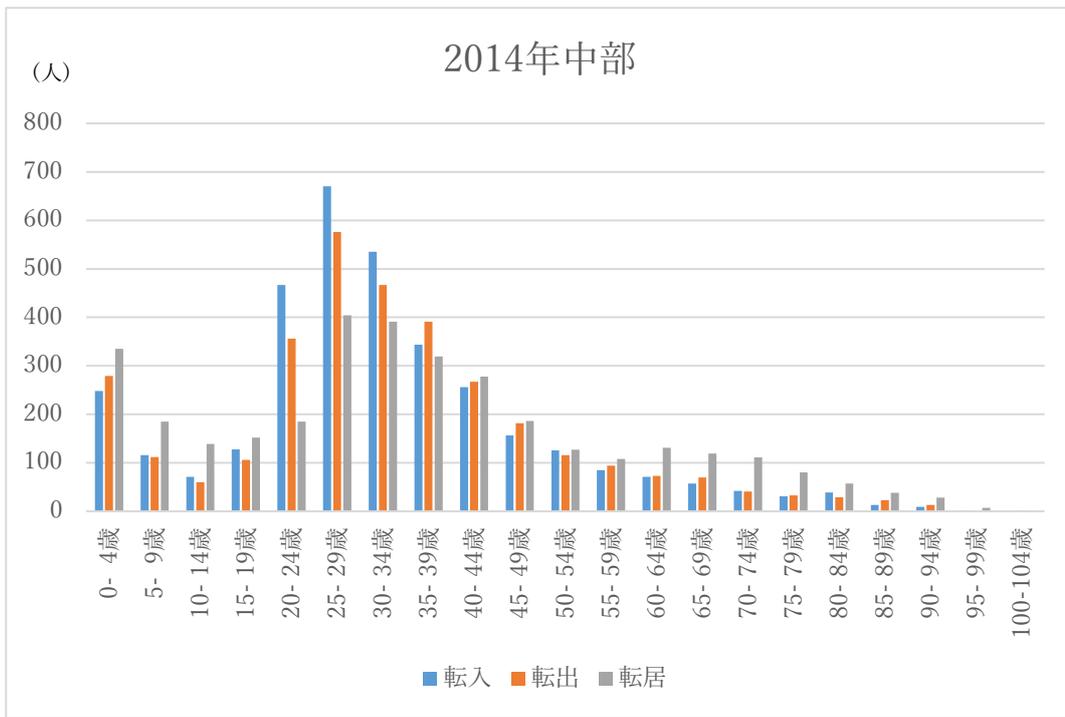
2014年北摂地域の詳細



2018年北摂地域の詳細



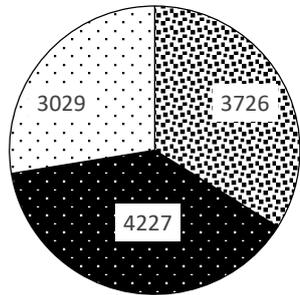
資料:住民基本台帳、単位:人



資料:住民基本台帳

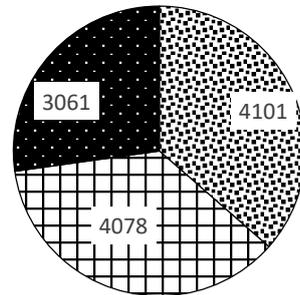
●中北部地域

2014年中北部社会移動数



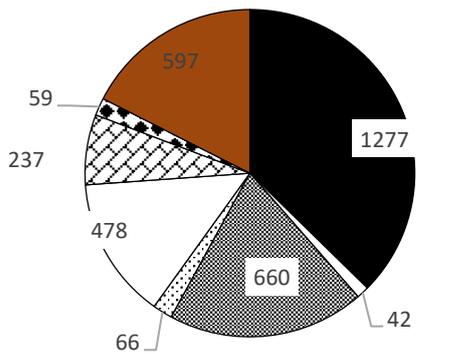
■ 転出 ■ 転入 □ 転居

2018年中北部社会移動数



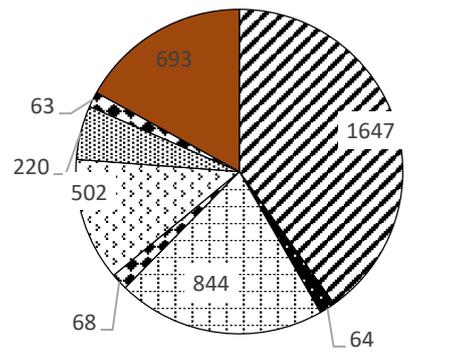
■ 転出 ■ 転入 ■ 転居

2014年転出先の割合



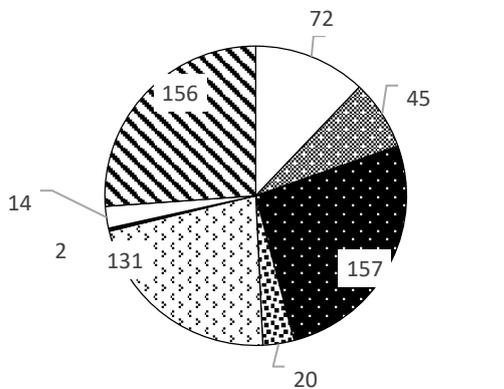
■ その他地域 □ 伊丹市 ■ 関東圏 □ 西宮市
□ 大阪市 □ 大阪府内 ■ 尼崎市 ■ 北摂

2018年転出先の割合



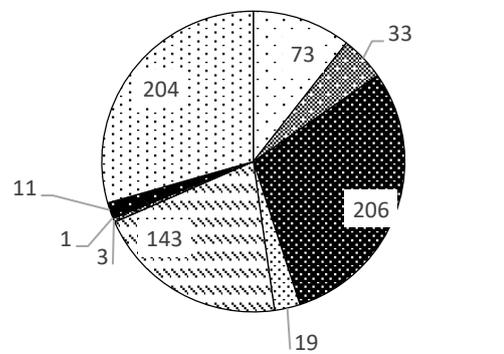
■ その他地域 ■ 伊丹市 □ 関東圏 ■ 西宮市
□ 大阪市 ■ 大阪府内 ■ 尼崎市 ■ 北摂

2014年北摂地域の詳細



□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 ■ 摂津市 □ 池田市
□ 島本町 ■ 能勢町 □ 豊能町 ■ 箕面市

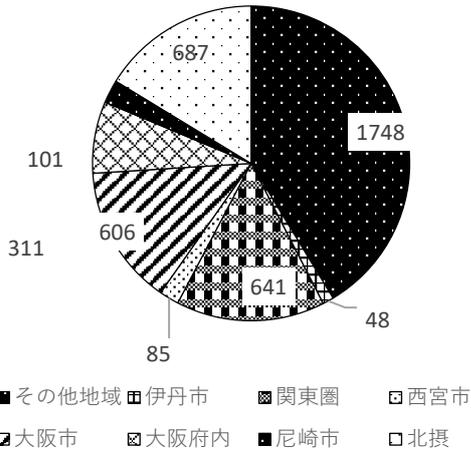
2018年北摂地域の詳細



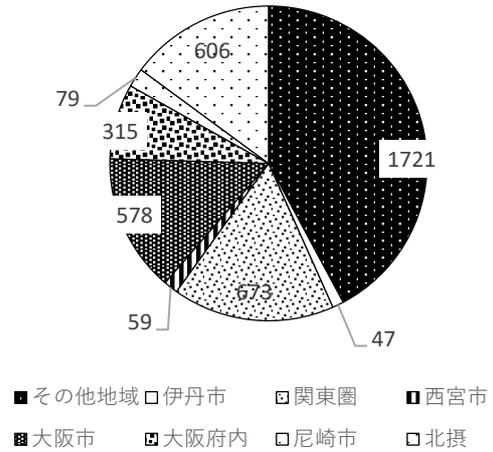
□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 □ 摂津市 □ 池田市
■ 島本町 □ 能勢町 ■ 豊能町 □ 箕面市

資料:住民基本台帳、単位:人

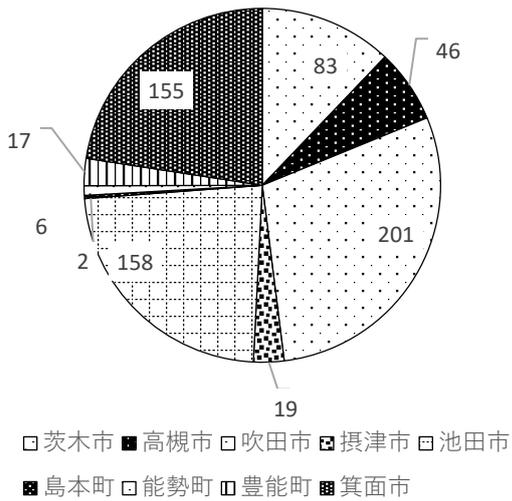
2014年転入先の割合



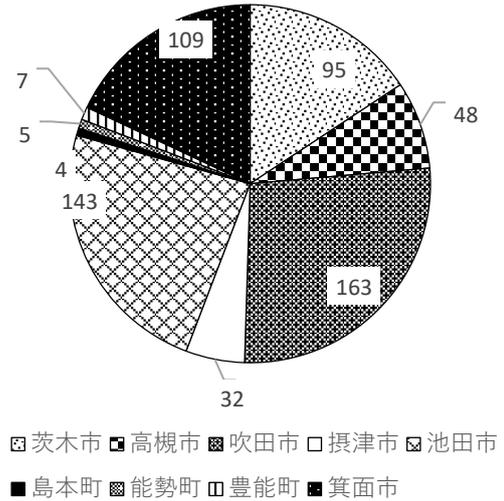
2018年転入先の割合



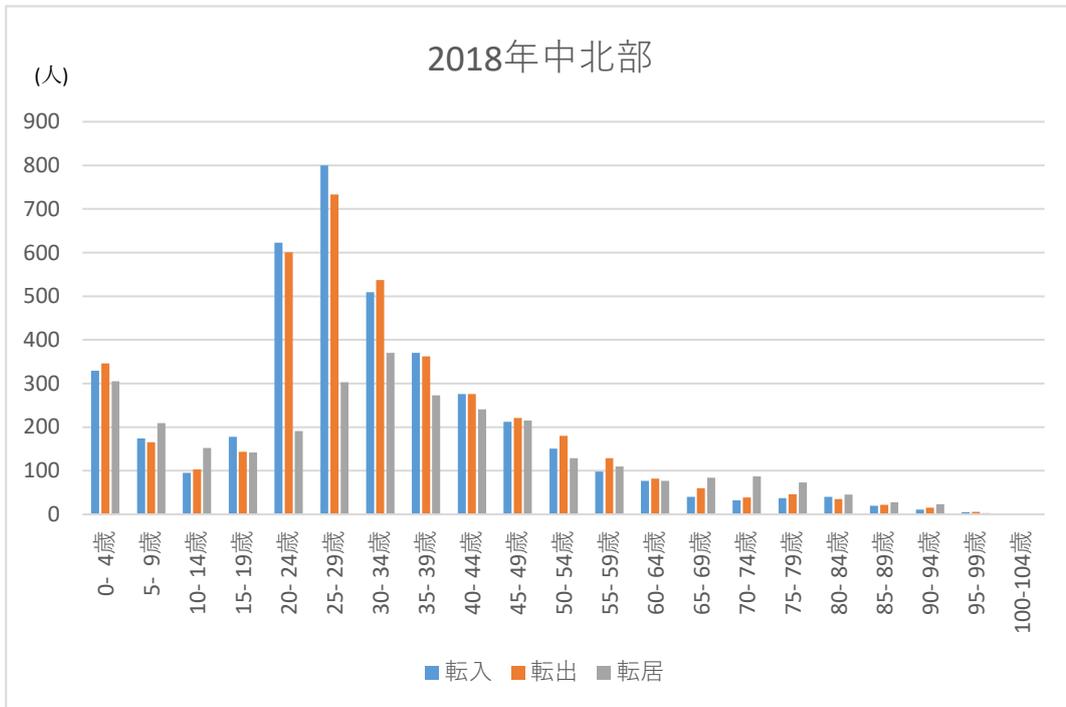
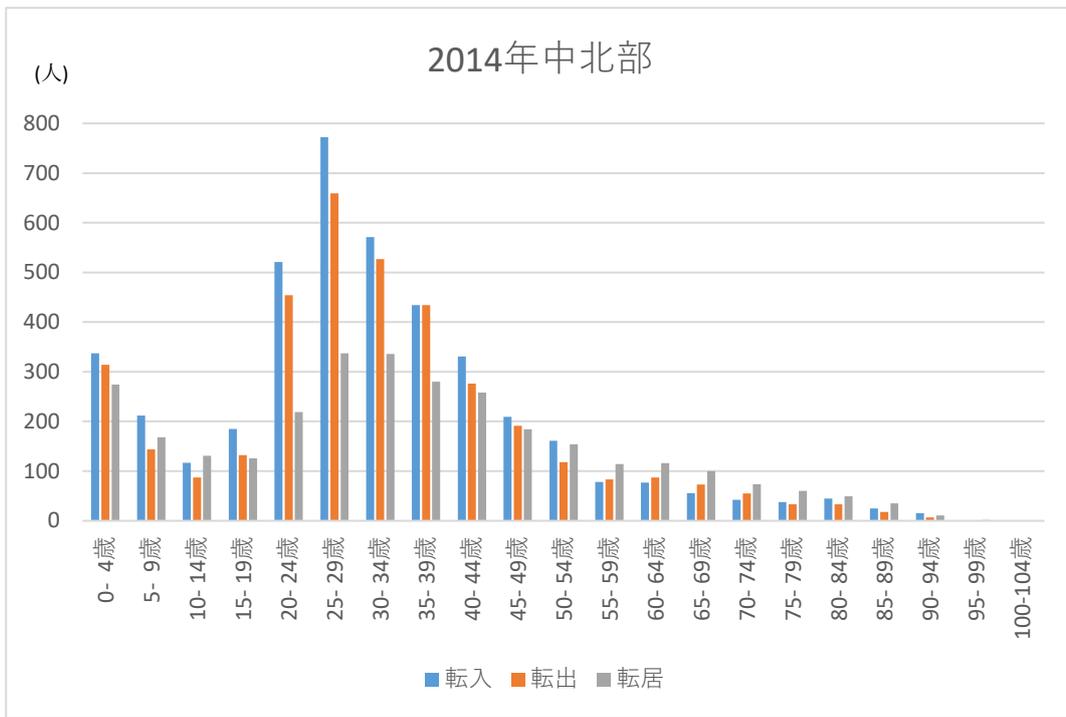
2014年北摂地域の詳細



2018年北摂地域の詳細



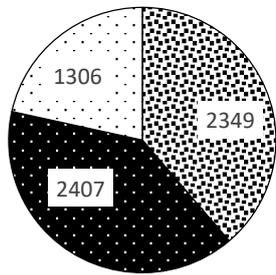
資料:住民基本台帳、単位:人



資料:住民基本台帳

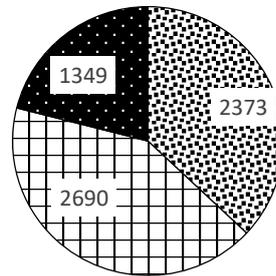
● 東部地域

2014年東部社会移動数



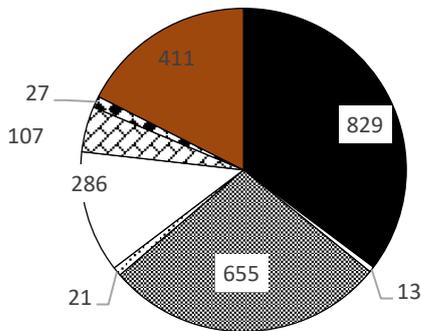
■ 転出 ■ 転入 □ 転居

2018年東部社会移動数



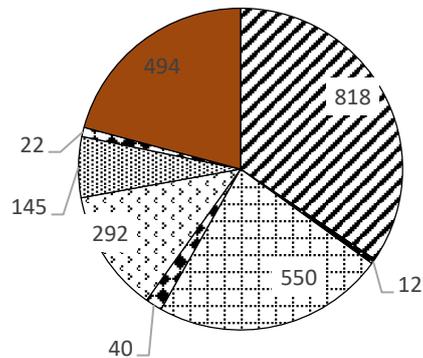
■ 転出 □ 転入 ■ 転居

2014年転出先の割合



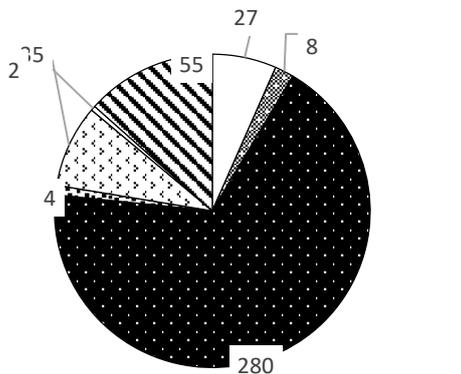
■ その他地域 □ 伊丹市 ■ 関東圏 □ 西宮市
□ 大阪市 □ 大阪府内 ■ 尼崎市 ■ 北摂

2018年転出先の割合



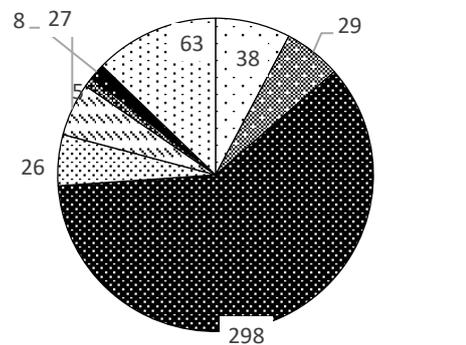
■ その他地域 ■ 伊丹市 □ 関東圏 ■ 西宮市
□ 大阪市 ■ 大阪府内 ■ 尼崎市 ■ 北摂

2014年北摂地域の詳細



□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 □ 摂津市 □ 池田市
□ 島本町 ■ 能勢町 □ 豊能町 □ 箕面市

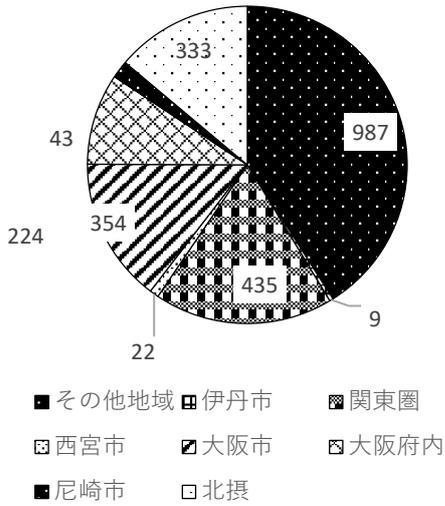
2018年北摂地域の詳細



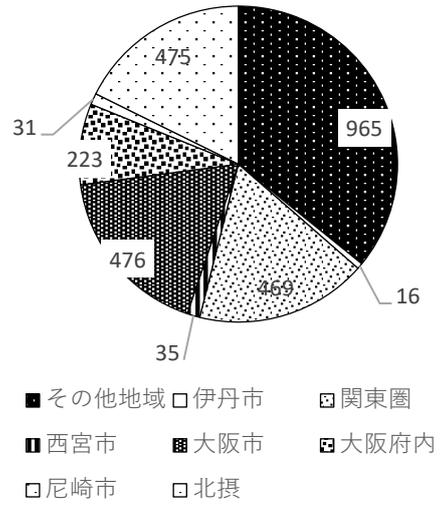
□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 □ 摂津市 □ 池田市
■ 島本町 □ 能勢町 ■ 豊能町 □ 箕面市

資料:住民基本台帳、単位:人

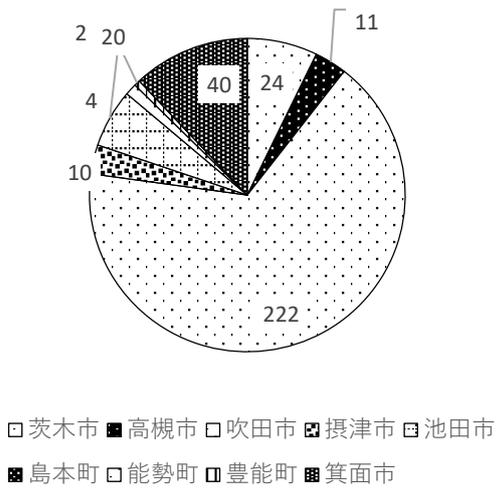
2014年転入先の割合



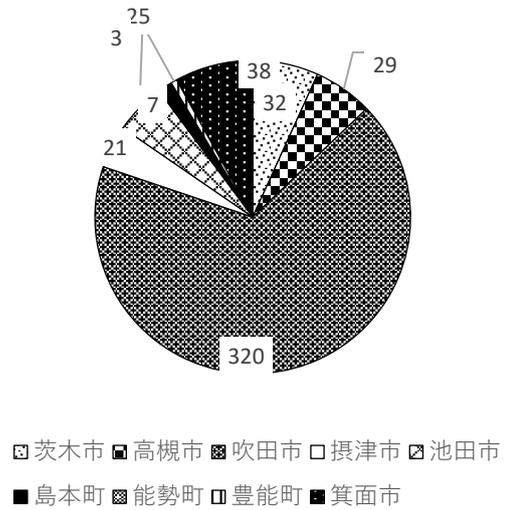
2018年転入先の割合



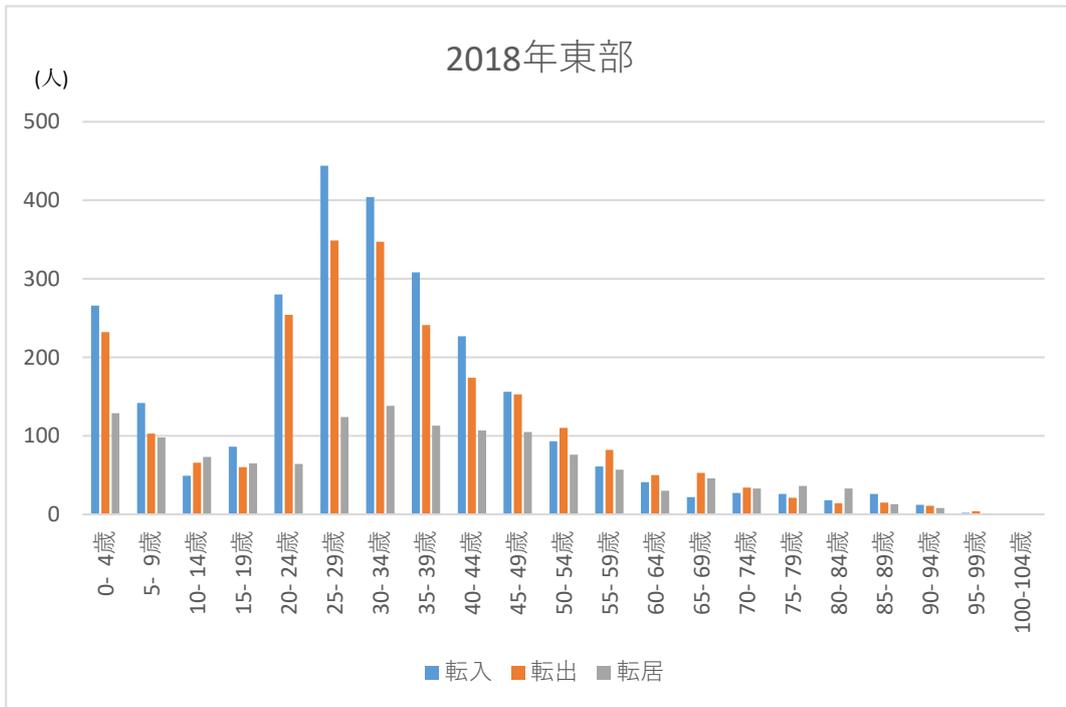
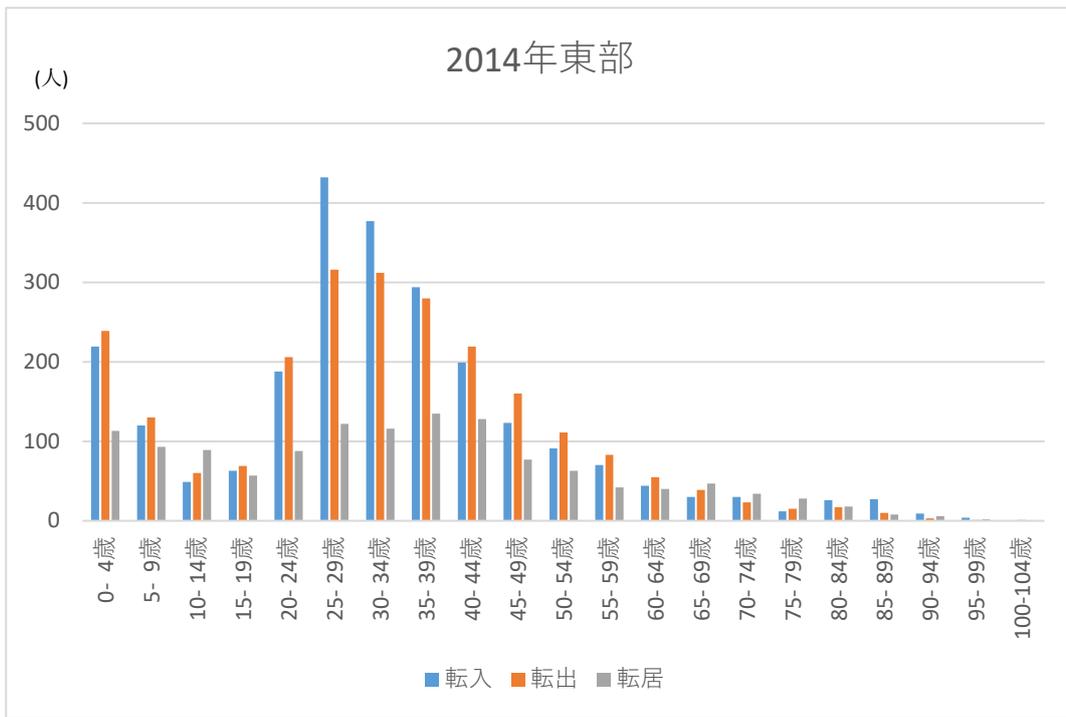
2014年北摂地域の詳細



2018年北摂地域の詳細



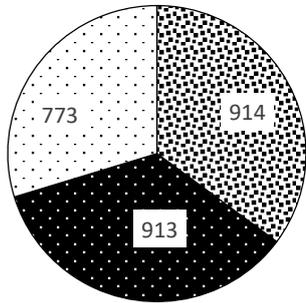
資料:住民基本台帳、単位:人



資料:住民基本台帳

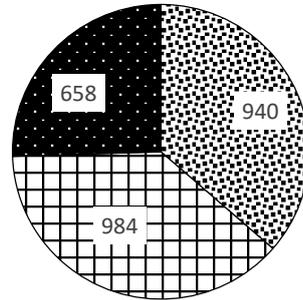
●西部地域

2014年西部社会移動数



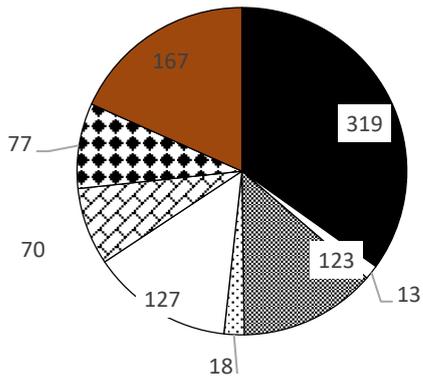
■ 転出 ■ 転入 □ 転居

2018年西部社会移動数



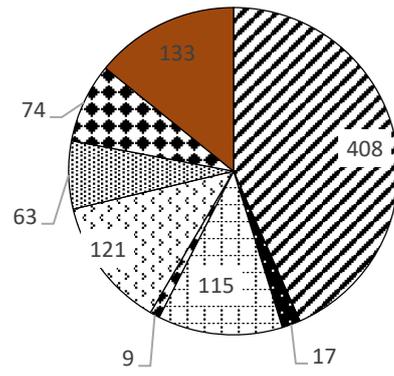
■ 転出 □ 転入 ■ 転居

2014年転出先の割合



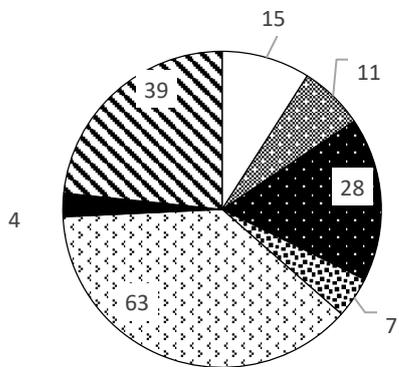
■ その他地域 □ 伊丹市 ■ 関東圏 □ 西宮市
□ 大阪府内 □ 大阪府 ■ 尼崎市 ■ 北摂

2018年転出先の割合



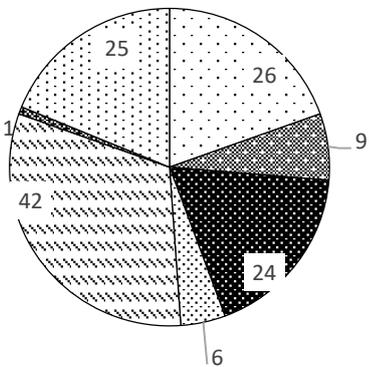
■ その他地域 ■ 伊丹市 □ 関東圏 ■ 西宮市
□ 大阪府内 ■ 大阪府 ■ 尼崎市 ■ 北摂

2014年北摂地域の詳細



□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 □ 摂津市 □ 池田市
□ 島本町 ■ 能勢町 □ 豊能町 ■ 箕面市

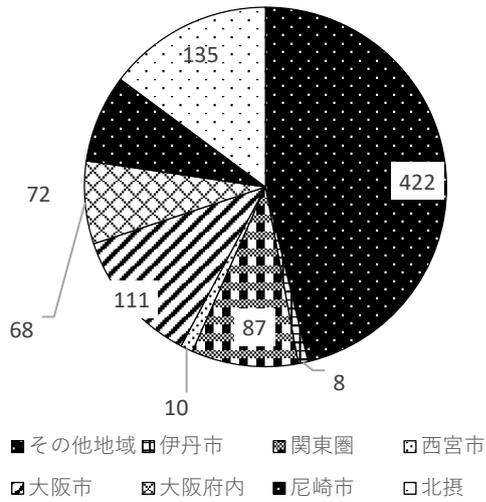
2018年北摂地域の詳細



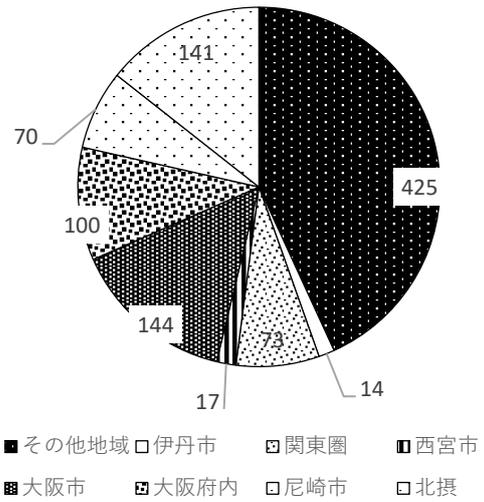
□ 茨木市 ■ 高槻市 ■ 吹田市 □ 摂津市 □ 池田市
■ 島本町 □ 能勢町 ■ 豊能町 □ 箕面市

資料:住民基本台帳、単位:人

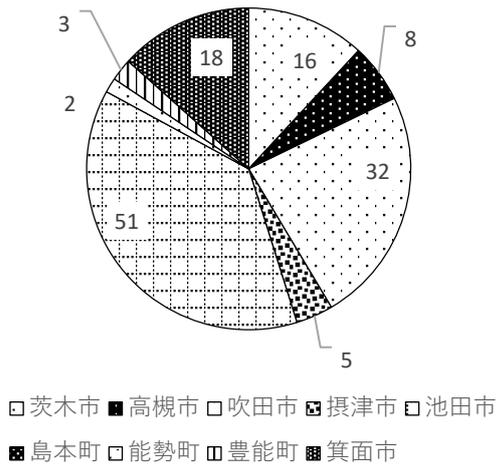
2014年転入先の割合



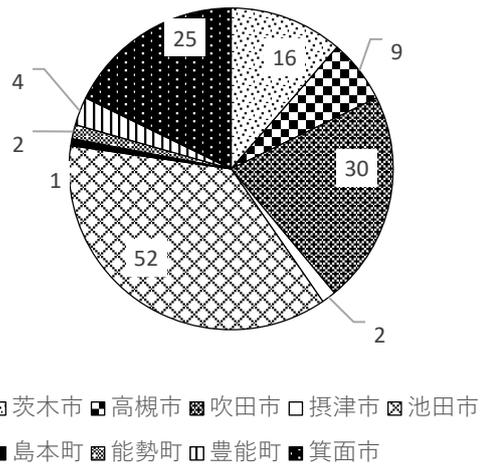
2018年転入先の割合



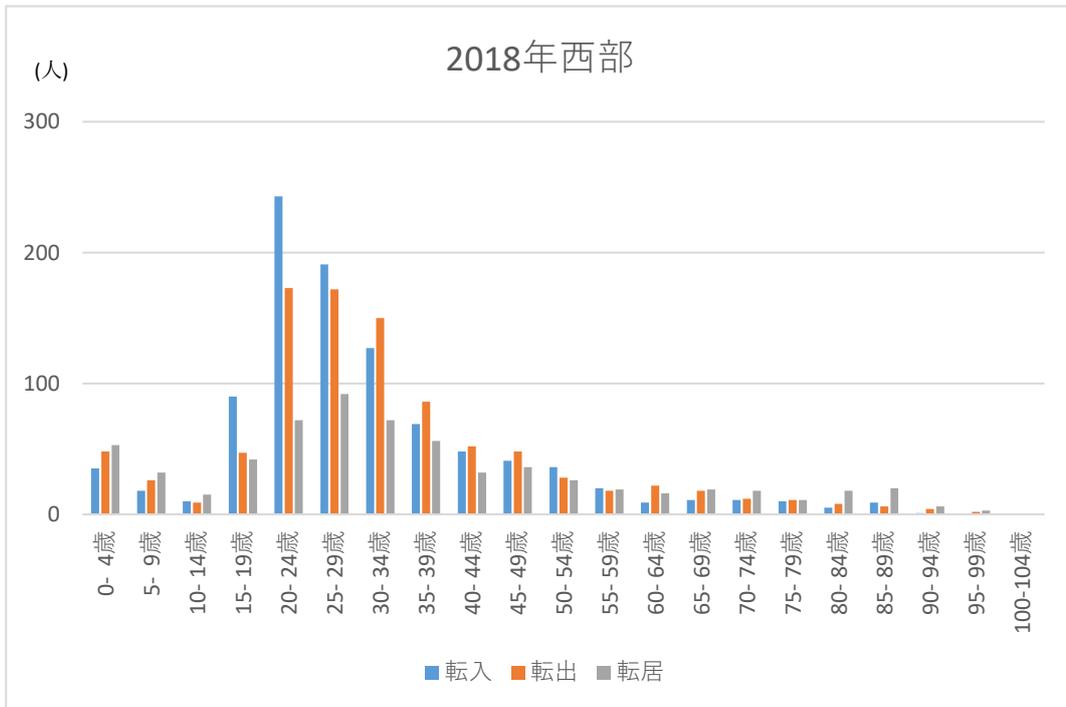
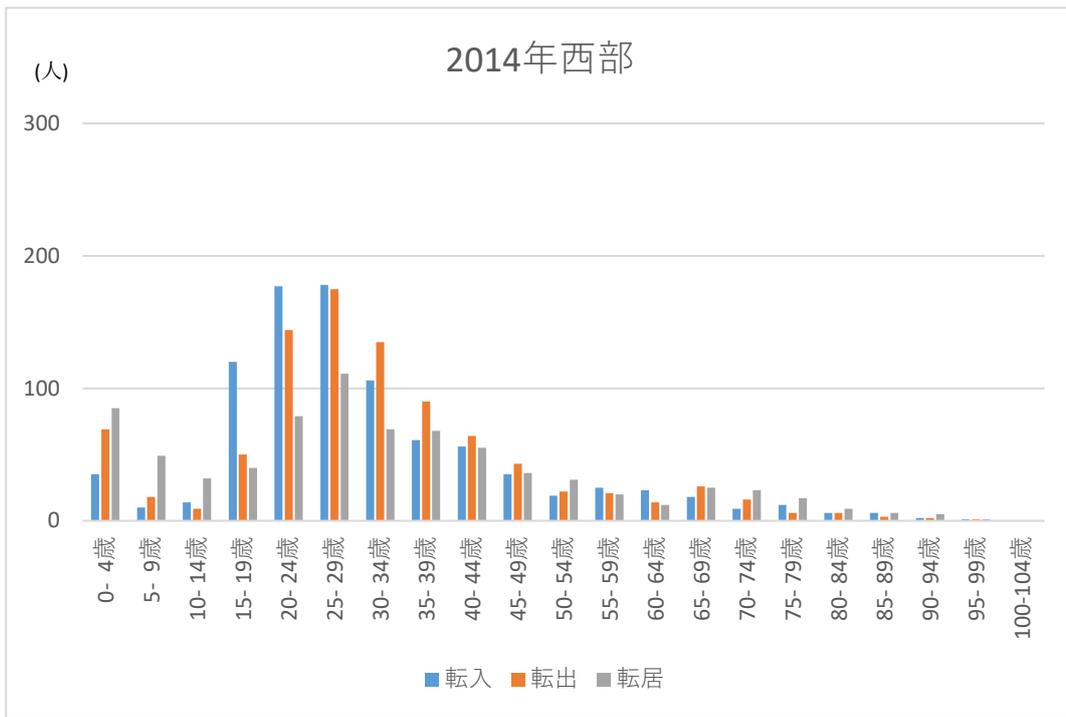
2014年北摂地域の詳細



2018年北摂地域の詳細



資料:住民基本台帳、単位:人



資料:住民基本台帳